

社会科教室124号

昭和2年度

香 社 研 総 会 要 項

日 時 平成2年4月29日(日)

。 9:30~11:00 理 事 会

。 11:00~12:30 総 会

会 場 銀 星 旅 館

香川県小学校教育研究会社会部会
香 川 県 社 会 科 教 育 研 究 会

目

次

平成元年度研究経過と事業報告	1
○平成元年度夏の社会科研究集会	2
平成2年度の組織と運営	4
香社研研究委員会の運営方針	10
平成2年度の研究方向	11
連 絡 網	26
○定例研究会連絡網	27
平成2年度の年間計画	28
平成2年度都市社研役員名簿	30
平成2年度香社研会員名簿	34

平成2年度香社研理事会日程

9:30～11:00

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議 事
 - (1) 平成元年度事業及び会計決算,
 監査報告
 - (2) 平成2年度組織案
 - (3) 平成2年度事業計画
 - (4) 平成2年度予算案
 - (5) 平成2年度研究主題について
 - (6) その他
4. 閉会あいさつ

平成2年度香社研総会日程

11:00～12:30

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議 事
 - (1) 平成元年度事業及び会計予算,
 監査報告
 - (2) 平成2年度組織案
 - (3) 平成2年度事業計画
 - (4) 平成2年度予算案
 - (5) 平成2年度研究主題について
 - (6) その他
4. 閉会あいさつ

平成元年度研究経過

6月定例会(高松) 6月24日, 高松市立四番丁小学校

- ・実践発表, パネル討議
- ・提案者: 松本けい子先生, 日下 哲也先生
上井 嘉先生, 大島 裕子先生
- ・指導者: 牟禮 良典先生(高松市教委主任指導主事)
関根 健一先生(高松市教育文化研究所)
植松 勝先生(高松市亀阜小学校教頭)

7月定例会(丸亀) 7月1日, 丸亀市立郡家小学校

- ・5年 「伝統を生かした工業」——丸亀うちわ——
- ・授業者: 久保山 学先生 ・指導者: 山下 清先生
- ・提案者: 樋口 昌樹先生 (仲多度出張所主任指導主事)

9月定例会(仲善) 10月14日, 多度津町立多度津小学校

- ・6年 「条約改正」
- ・授業者: 島田 英夫先生 ・指導者: 旅田 敏弘先生
- ・提案者: 高橋 義徳先生 (附属高松小学校)

10月定例会(坂出) 10月28日, 坂出市立東部小学校

- ・6年 「野口 英世とその時代」
- ・授業者: 大野 史子先生 ・指導者: 渡邊 平一先生
- ・提案者: 川中 祥照先生 (香社研常任指導者)

11月定例会(綾歌) 11月18日, 綾南町立陶小学校

- ・6年 「戦前戦後のくらしと新しい日本」
- ・授業者: 有岡 俊文先生 ・指導者: 河津 学先生
- ・提案者: 大西 浩史先生 (香社研常任指導者)

1月定例会(三観) 1月20日, 観音寺東小学校

- ・6年 「アメリカのくらし」
- ・授業者: 原 直史先生 ・指導者: 各務 清先生
- ・提案者: 平川 博先生 (観音寺市教委主任指導主事)

2月定例会(大川) 2月10日, 寒川町立石田小学校

- ・5年 「新高松空港と産業」
- ・授業者: 広瀬 強先生 ・指導者: 古市 聖治先生
- ・提案者: 向山智恵子先生 (香社研常任指導者)

平成元年度 夏の社会科学研究集会

7月27日(木)

1. 主 催 香川県小学校教育研究会社会部会

2. 日 程

(※進行-----柳 敬子教頭先生)

場 所	時 刻	内 容	
土 庄 町 立 土 庄 小 学 校	9:00	受 付	
	9:30	提 案 授 業	
		学 年	1 年 2 年 3 年 4 年 5 年 6 年
		単 元 名	おうちのしごととおおいよ ぼくらは、ゆうびんやさん 工場のしごととくふうごま油工場 水を求めて蛙子池をつくった太田典徳 自動車の生産のさかんな地域 本居 宣長
		授 業 者	坂本 弘子 役重 和雅 大山 博文 山本 義博 坂本 史代 岡本 英孝
		協力者	郡 多田 由紀 林 明子 黒川 和仁 大嶋 和彦 羽座 則史 寺嶋 俊秀
		県	政岡 恵子 松本けい子 香川 佳和 小原 敏昭 福岡 靖芳 前川 保雄
		記 録 者	佐立 裕美 江口 真紀 内海 政代 田中 秀年 土井 早苗 森 昭二
	10:15	休 憩	
	10:30	分 科 会 討 議	
土 庄 町 立 中 央 公 民 館		学 年	1 年 2 年 3 年 4 年 5 年 6 年
		司 会 者	竹田 具治 蓮本 和博 野村 一夫 森口 訓行 原 直史 亀山 典良
		提案者	郡 三崎 彰夫 福井 治美 眞井 孝征 岩崎 正敬 姫田 朋樹 田岡 直樹
		県	筑後 暁美 真鍋 朗子 波多 誠 虫本 利久 佐長 健司 山下 敦
		記 録 者	益田 隆子 松川 幸代 山谷 元子 池田 誠 馬淵 彰子 高橋 克佳
		指 導 者	古市 聖治 河津 学 大西 孝典 梅木 正信 植松 勝 土岐 道憲
	12:00	昼 食 ・ 移 動 (※体育館で昼食)	
	12:50	アトラクション	
	13:10	開 会 式	
	13:30	全 体 提 案 土庄小学校の研究の取り組み 土庄小 教諭 大山 博文	
13:45	本 部 提 案 社会科学習の改訂の方向と香社研の課題 香大附属高松小 教諭 池田 孝徳		
14:10	各 分 科 会 報 告 ・生活科分科会 (丹生小) 竹田 具治 ・地域学習分科会 (岡田小) 野村 一夫 ・産業学習分科会 (観東小) 原 直史 ・歴史学習分科会 (高篠小) 亀山 典良 記録者 大川：長尾小 松田 章子		
15:10	休 憩		
15:20	講 評 今、社会科教師に求めたいこと 前善通寺市立中央小学校 校長 岡野 啓 先生 記録者 木田：田中小 脇 広久		
16:10	閉 会 式		

7月27日(木)

1. 主 催 香川県社会科教育研究会

2. 日 程

(※進行-----事務局)

場 所	時 刻	内 容
銀 星 旅 館	19:00	これからの地域学習の在り方を探る 1. 提 案 「私が実践したい地域学習」 2. 討 議 3. 指 導
	21:00	提案者 香大附属坂出小 教諭 宇山 知昌 高松：古高松小 教諭 溝内 哲也 司会者 香大附属高松小 教諭 七條 正典 指導者 文部省教科調査官 高野 尚好 先生 記録者 高松：木太小 教諭 多田 明広

7月28日(金)

(※進行 ----- 事務局)

場 所	時 刻	内 容
附 属 高 松 小 学 校	9:00	受 付
	9:30	授 業 説 明 香大附属高松小 教諭 旅田 敏弘
	9:45	提 案 授 業 4年 「沖永良部島に生きる人々」 授業者 香大附属高松小 教諭 旅田 敏弘 記録者 香川：浅野小 教諭 篠田美津子
	10:30	休 憩
	10:45	代 表 者 討 議 討議者 大川：本町小 佐藤 正文 司会者 香大附属坂出小 教諭 岡根 淳二 小豆：豊島小 眞井 孝征 記録者 坂出：東部小 教諭 鈴木 清子 高松：四番丁小 大島 裕子 指導者 高松市教委主任指導主事 牟禮 良典 先生 坂出：東部小 川中 祥照 仲多度出張所主任指導主事 仲善：中央小 森井 信一 山下 清明 先生 三観：勝間小 安藤 通 高松：附高小 旅田 敏弘
	12:30	移 動 ・ 昼 食 (※銀星旅館で昼食)
	13:30	講 演 演 演 題 これからの地域学習の方向 —— 生活科との接続・発展を考慮した地域学習 —— 講 師 文部省初等中等教育局小学校課教科調査官 高 野 尚 好 先生 記録者 綾歌：滝宮小 末澤 康彦 丸亀：城東小 香川 浩子
	15:30	閉 会 式
	16:00	

平成2年度の組織と運営

香川県社会科教育研究会

1. 組織について

⑦ 会長等の役員

	氏 名	学 校 名	〒	学 校 所 在 地	学 校 電 話
会 長	川 田 豊 弘	高・栗林小	760	高・栗林町2-10-7	0878-61-3438
副会長	石 井 英 雄	三・松崎小	769-11	三・詫間町松崎	0877-83-2856
副会長	亀 井 達 男	大・津田小	769-24	大・津田町津田144	0879-42-2047
会 計	安 部 武	大・三本松小	769-26	大・大内町三本松862-1	0879-25-2664
監 査	曾 根 照 正	坂・府中小	762	坂・府中町1193-3	0877-48-0610

① 顧 問 歴 代 会 長

⑦ 総 務 岡 根 淳 二 池 田 孝 徳

㊤ 郡市理事

	郵便番号	郡 市	町 名	校 名	○	理 事 名	勤 電 話
高 松	760	高 松	高松市	男 木 小		関 根 建 一	0878-73-0506
	760	"	"	亀 阜 小		植 松 勝	0878-61-2013
	761	"	"	一 宮 小	○	徳 田 仁 司	0878-85-1764
	761	"	"	鬼 無 小		蓮 本 和 博	0878-81-2413
丸 亀	763	丸 亀	丸亀市	郡 家 小		庭 村 三 勇 喜	0877-28-8401
	763	"	"	"	○	香 川 佳 和	"
坂 出	762	坂 出		加 茂 小		大 林 照 男	0877-48-0601
	762	"	"	東 部 小	○	川 中 祥 照	0877-46-0234
小 豆	761-41	小 豆	土庄町	湊 崎 小		田 川 敬 司	0879-62-0072
	761-13	"	池田町	三 都 小	○	羽 座 則 史	0879-76-0007
大 川	769-26	大 川	大内町	三本松小		安 部 武	0879-25-2664
	769-23	"	寒川町	神 前 小		小 倉 健 治	0879-43-2124
	769-27	"	白鳥町	木 町 小	○	佐 藤 正 文	0879-25-3064
木 田	761-01	木 田	牟礼町	牟 礼 小		北 堀 豊 清	0878-45-9239
	761-07	"	三木町	白 山 小	○	泉 聡	0878-98-0257
香 川	761-17	香 川	香川町	大 野 小		筒 井 勇	0878-89-7360
	761-14	"	香南町	香 南 小	○	千 葉 雅 巳	0878-79-2269
綾 歌	769-01	綾 歌	国分寺町	国 北 部 小		川 上 保 直	0878-74-1154
	761-24	"	綾歌町	岡 田 小	○	野 村 一 夫	0877-86-3004
仲・善	769-03	仲多度・善通寺	仲南町	仲南東小		長 尾 浩	0877-77-2140
	766	"	満濃町	高 篠 小	○	亀 山 典 良	0877-73-3842
三・観	767-11	三 豊・観音寺	詫間町	松 崎 小		石 井 英 雄	0877-83-2856
	768	"	観音寺町	観 東 小	○	原 直 史	0875-25-2219
	767	"	高瀬町	麻 小		平 川 博	0875-74-6237
	768	"	観音寺町	観 南 小		佐 長 健 司	0875-25-4675

㊤ 香社研 平成2年度研究委員会組織

研究委員会・部長・副部長

No.	氏 名	学 校 名	学年	〒	学 校 所 在 地	学校電話	自宅電話
1	池 田 孝 徳	附 高 小	1	760	高・番町5丁目1-55	0878 61-7108	
2	岡 根 淳 二	附 坂 小	2	762	坂・文京町2-4-2	0877 46-2692	

常任指導者

No.	氏 名	学 校 名	〒	学 校 所 在 地	学 校 電 話
1	岡 野 啓	四 国 学 院	765	善・文京町3-2-1	0877-62-2111
2	池 内 博	高 松 短 大	761-01	高・春日町960	0878-41-3255
3	亀 山 信 夫	仲・琴平小	766	仲・琴平町145-1	0877-73-2831
4	中 田 清	三・本山小	769-15	三・豊中町本山甲1893	0875-62-2125
5	川 上 保 直	綾・国北小	769-01	綾・国分寺町新居1880	0878-74-1154
6	土 岐 道 憲	綾・飯北小	762	綾・飯山町川原1874	0877-98-2020
7	岡 田 弘 浩	高・附属小	760	高・番町5-1-55	0878-61-7108
8	大 西 孝 典	坂・附属小	762	坂・文京町2-4-2	0877-46-2692
9	古 市 聖 治	大・造田小	769-23	大・長尾町造田是弘688	0879-52-2141
10	山 下 清 明	仲・豊原小	764	仲・多度津町南鴨704	0877-32-2050

定例研究会

No.	氏 名	学 校 名	学年	〒	学 校 所 在 地	学校電話	自宅電話
1	池 田 孝 典	附 高 小	2	760	高・番町5丁目1-55	0878 61-7108	
2	徳 田 仁 司	高・一宮小	6	761	高・一宮町672-1	0878 85-1764	
3	香 川 佳 和	丸・郡家小	3	763	丸・郡家町790-1	0877 28-8401	
4	川 中 祥 照	坂・東部小	4	762	坂・室町1-1-21	0877 46-0234	
5	羽 座 則 史	小・三都小	6	761	小・池田町大字蒲野 1610-2	0879 76-0007	
6	佐 藤 正 文	大・本町小	専	769 -27	大・白鳥町松原167-1	0879 25-3064	
7	泉 聡	木・白山小	6	761 -07	木・三木町352-1	0878 98-0257	
8	千 葉 雅 己	香・香南小	3	761 -14	香・香南町横井1008	0878 79-2269	
9	野 村 一 夫	綾・岡田小	6	761 -24	綾・綾歌町岡田下217	0877 86-3004	
10	亀 山 典 良	仲・高篠小	6	766	仲・満濃町東高篠139	0877 73-3842	
11	原 直 史	観・観東小	専	768	観・観音寺町甲670-2	0875 25-2219	

研究委員会

No.	氏 名	学 校 名	学年	〒	学 校 所 在 地	学校電話	自宅電話
1	松 下 繁 美	高・栗林小	5	760	高・栗林町 2-10-7	0878 61-3438	
2	山 下 晃	高・屋島西小	初任	761 -01	高・屋島西町 2469	" 41-1063	
3	蓮 本 和 博	高・鬼無小	5	761	高・鬼無町佐藤 607-1	" 81-2413	
4	藤 本 一 郎	高・栗林小	6	760	高・栗林町 2-10-7	" 61-3438	
5	福 家 親 夫	高・檀紙小	6	761	高・御厩町 816	" 85-1715	
6	亀 井 伸 治	高・四番丁小	6	760	高・番町 1-5-1	" 51-8390	
7	南 原 志 伸	高・日新小	3	"	高・瀬戸内町 18-2	" 61-5702	
8	大 島 裕 子	高・四番丁小	3	"	高・番町 1-5-1	" 51-8390	
9	黒 川 紀 子	高・香西小	2	761	高・香西南町 703-1	" 81 3214	
10	大 橋 けい子	高・亀阜小	6	760	高・亀岡町 10-1	" 61-2013	
11	上 井 嘉	高・太田小	6	761	高・伏石町 845-1	" 65-4433	
12	日 下 哲 也	高・日新小	5	760	高・瀬戸内町 18-2	" 61-5702	
13	喜 多 文 彦	高・花園小	5	"	高・花園町 2-7-7	" 31-9129	
14	陶 山 真 司	高・三溪小	6	761 -04	高・三谷町 2173-1	" 89-0767	
15	宇喜多 孝 明	高・香西小	5	761	高・香西南町 703-1	" 81-3214	
16	小 西 宏 幸	高・屋島小	5	761 -01	高・屋島西町 1205-1	" 41-1538	
17	姫 田 朋 樹	高・木太北部小	4	760	高・木太町 2613	" 31-4150	
18	井 上 泉	高・屋島西小	5	761 -01	高・屋島西町 2469	" 41-1063	
19	多 田 明 広	高・円座小	4	761	高・円座町 1630-2	" 85-2547	
20	佐々木 誠	高・仏生山小	4	"	高・仏生山町甲 2461	" 89-0549	
21	溝 内 哲 也	高・男木小	5	760	高・男木町 165	" 73-0506	
22	金 崎 美 穂	高・四番丁小	2	"	高・番町 1-5-1	" 51-8390	
23	松 川 幸 代	高・亀阜小	4	"	高・亀岡町 10-1	" 61-2013	
24	梅 谷 旬	丸・城西小	5	763	丸・六番町 12	0877 22-9267	
25	山 野 正 登	丸・城坤小	4	"	丸・今津町 348	" 24-4705	
26	樋 口 昌 樹	丸・城東小		"	丸・土器町 98	" 24-4703	
27	藤 六 健	丸・郡家小		"	丸・郡家町 790-1	" 28-8401	
28	合 田 吉 宏	丸・城坤小		"	丸・今津町 348	" 24-4705	
29	北 分 英 樹	"		"	"	"	
30	池 内 右 典	丸・城乾小		"	丸・中府町 5 丁目 15-1	" 22-8158	

No.	氏 名	学 校 名	学年	〒	学 校 所 在 地	学校電話	自宅電話
31	香 川 佳 和	丸・郡家小	3	763	丸・郡家町 790-1	0877 28-8401	
32	三 宅 弘 信	丸・城西小	3	〃	丸・六番町 12	〃 22-9267	
33	石 川 裕 之	丸・城北小		〃	丸・瓦町 75	〃 24-4700	
34	久保山 学	丸・郡家小	6	〃	丸・郡家町 790-1	〃 28-8401	
35	寒 川 英 樹	〃	6	〃	〃	〃	
36	鈴 木 清 子	坂・中央小	2	762	坂・寿町 3-1-2	〃 46-2124	
37	野 村 亮 子	坂・東部小	5	〃	坂・室町 1-1-21	〃 46-0234	
38	虫 本 利 久	坂・金山小	6	〃	坂・谷町 3-1-23	〃 46-2329	
39	吉 田 和 弘	坂・林田小	4	〃	坂・林田町 2191	〃 47-0270	
40	田 中 秀 年	坂・西部小	5	〃	坂・白金町 1-3-7	〃 46-2149	
41	福 家 寿 夫	坂・東部小	5	〃	坂・室町 1-1-21	〃 46-0234	
42	丸 尾 浩 一	坂・林田小	5	〃	坂・林田町 2191	〃 47-0270	
43	来 田 育 代	坂・川津小	1	〃	坂・川津町 3093-1	〃 46-3884	
44	丸 尾 ルミ子	坂・瀬居小	3	〃	坂・瀬居町 1490	〃 46-9194	
45	岡 本 英 孝	小・土庄小	5	761 -41	小・土庄町甲 657-7	0879 62-0068	
46	役 重 和 雄	〃	障	〃	〃	〃	
47	石 井 英 樹	小・池田小	6	761 -43	小・池田町池田	〃 75-2222	
48	黒 川 和 仁	小・刈崎小	4	761 -41	小・土庄町刈崎	〃 62-0072	
49	寺 嶋 俊 秀	小・安田小	4	761 -44	小・内海町安田	〃 82-2012	
50	大 嶋 和 彦	小・星城小	5	〃	小・内海町草壁本町	〃 82-2011	
51	三 井 重 彰	大・多和小	5	769 -23	大・長尾町多和字助光30-1	〃 56-2002	
52	三 好 憲 昭	大・鴨部小	1	769 -22	大・志度町大字鴨部1137	0878 95-0030	
53	竹 田 具 治	大・丹生小	専	769 -25	大・大内町町田 135	0879 25-3504	
54	沖 爾 二	〃	4	〃	〃	〃	
55	竹 内 久 司	大・鶴羽小	5	769 -24	大・津田町鶴羽 781-2	〃 42-2041	
56	大 山 博 文	大・志度小	3	769 -21	大・志度町大字志度 727	0878 94-0041	
57	橋 本 義 人	大・本町小	5	769 -27	大・白鳥町松原 167-1	0879 25-3064	
58	松 村 和 仁	大・多和小	4	769 -23	大・長尾町多和字助光30-1	〃 56-2002	
59	濱 松 春 水	大・造田小	6	〃	大・長尾町造田是弘688-1	〃 52-2141	
60	大 石 桂 司	大・志度小	3	769 -21	大・志度町大字志度 727	0878 94-0041	
61	田 辺 裕一朗	大・相生小	4	769 -29	大・引田町南野 204	0879 33-3627	

No.	氏 名	学 校 名	学年	〒	学 校 所 在 地	学校電話	自宅電話
62	大 高 哲 也	大・五名小	1	769 -27	大・白鳥町五名 2103	0879 29-2003	
63	柏 徹 哉	木・牟礼南小	3	761 -01	木・牟礼町大町 115	0878 45-9324	
64	伊 藤 良 春	木・白山小	4	761 -07	木・三木町下高明	// 98-0257	
65	六 車 信 二	木・平井小	5	761 -07	木・三木町 710-1	// 98-0713	
66	栗 原 康 孝	木・白山小	4	761 -01	木・三木町下高岡	// 98-0257	
67	古 市 礼 恵	木・神山小	2	761 -07	木・三木町奥山		
68	伏 見 千 珠	木・牟礼北小	5	761 -01	木・牟礼町 2900-1	0878 45-5742	
69	森 本 三千代	//	3	//	//	//	
70	小笠原 学	木・田中小	4	761 -06	木・三木町 4620-2	0878 98-0501	
71	阿 野 利 佳	木・平井小	4	761 -07	木・三木町 710-1	// 98-0713	
72	筒 井 勇	香・大野小		761 -17	香・香川町大野 1045-1	// 89-7360	
73	平 尾 高 王	//		//	//	//	
74	前 田 宏 之	香・川東小		//	香・香川町川東 1865-8	0878 79-2012	
75	野 口 泰 三	香・浅野小		//	香・香川町浅野 3088	// 89-0215	
76	篠 田 美津子	//		//	//	//	
77	前 田 勝 博	//		//	//	//	
78	千 葉 雅 己	香・香南小	3	761 -14	香・香南町横井 1008	0878 79-2269	
79	池 田 誠	//	5	//	//	//	
80	中 田 由紀恵	//	3	//	//	//	
81	鎌 野 修	香・塩江小		761 -16	香・塩江町安原上東 365	0878 93-0027	
82	波 多 誠	綾・国北小	2	769 -01	綾・国分寺町新居 1880	// 74-1154	
83	唐 木 美千子	//	2	//	//	//	
84	花 房 長 広	綾・滝宮小	5	761 -23	綾・綾南町滝宮 1100	0878 76-1183	
85	野 村 一 夫	綾・岡田小	6	761 -24	綾・綾歌町岡田下 217	0877 86-3004	
86	神 田 仁 美	綾・宇多津小	1	769 -02	綾・宇多津町 815	// 49-1820	
87	末 澤 康 彦	綾・粉所小	5	761 -22	綾・綾上町粉所西甲 2060	0878 78-2312	
88	有 岡 俊 文	綾・陶 小	5	761 -21	綾・綾南町陶 5878	// 76-1182	
89	丹 後 靖 史	綾・国北小	6	769 -01	綾・国分寺町新居 1880	// 74-1154	
90	眞 井 孝 征	綾・国南小	5	//	綾・国分寺町福家甲 3005	// 74-1160	
91	大 西 浩 史	綾・岡田小	5	761 -24	綾・綾歌町岡田下 217	0877 86-3004	
92	田 村 培 雄	綾・飯北小	1	762	綾・飯山町川原 1874	// 98-2020	

No.	氏 名	学 校 名	学年	〒	学 校 所 在 地	学校電話	自宅電話
93	大 高 浩 一	綾・宇多津小	2	769 -02	綾・宇多津町 815	0877 49-1820	
94	片 井 功	仲・多度津小	5	764	仲・多度津町栄町 3丁目 1-9	〃 33-1616	
95	高 橋 義 徳	仲・東 小	5	766 -02	仲・琴南町川東 919	〃 84-2333	
96	橋 塚 智 教	〃	6	〃	〃	〃	
97	高 橋 克 佳	仲・満濃南小	5	766	仲・満濃町吉野 74	〃 79-2110	
98	松 原 千代子	善・中央小	6	765	善・文京町 4-5-1	〃 62-1616	
99	前 川 保 雄	仲・琴平小	5	766	仲・琴平町 145-1	〃 73-2831	
100	亀 山 典 良	仲・高篠小	6	〃	仲・満濃町東高篠 139	〃 73-3842	
101	森 昭 二	善・筆岡小	5	765	善・中村町 1575-2	〃 62-0706	
102	萬 亀 弘 吉	善・竜川小	4	〃	善・原田町 306-1	〃 62-0705	
103	平 川 博	三・麻 小	6	767	三・高瀬町下麻 1209-2	0875 74-6237	
104	原 直 史	観・観東小	専	768	観・観音寺町甲 670-2	〃 25-2219	
105	佐 長 健 司	観・観南小	5	〃	観・観音寺町甲 1186-2	〃 25-4675	
106	荻 田 正 信	三・萩原小	5	769 -16	三・大野原町萩原 2354	〃 54-2079	
107	柴 田 英 明	三・豊浜小	6	769 -16	三・豊浜町和田浜 1000	〃 52-2029	
108	安 藤 清 和	三・河内小	5	768 -01	三・山本町河内 714	〃 63-2019	
109	安 藤 通	三・勝間小	4	767	三・高瀬町下勝間 803	〃 72-5329	
110	合 田 雅 気	三・辻 小	5	768 -01	三・山本町辻 1375	〃 63-2037	
111	福 岡 和 信	三・比地小	6	769 -15	三・豊中町比地大 2514-1	〃 62-2124	
112	小 山 善 弘	観・観南小	4	768	観・観音寺町甲 1186-2	〃 25-4675	
113	石 川 博 健	三・河内小	6	768 -01	三・山本町河内 714	〃 63-2019	
114	岸 上 也 寸志	三・財田上小	4	769 -04	三・財田町財田上 726	〃 67-2005	

㊦ 事業部 岡根 淳二

○ 社会科の基礎・テスト

旅田 敏弘 宇山 知昌 三好 憲昭 渡邊 健司 山下 晃
野崎 恭一 蓮本 和博 徳田 仁司

○ 検討委員

西谷 則一(1年) 山崎 敏和(2年) 鎌野 修(3年)
植松 勝(4年) 小倉 健治(5年) 梅木 正信(6年)

㊧ 編集部

○ 社会科教室 岡根 淳二 七條 正典

○ 香社研だより 旅田 敏弘 宇山 知昌

○ 討議資料 宇山 知昌 旅田 敏弘

㊨ フィールドワーク部 郡市持ち回り(2年度,三豊)

㊩ 庶務部 七條 正典 岡根 淳二

㊪ 会計計部 岡根 淳二 池田 孝徳

事務局 附高小 池田 孝典 七條 正典 旅田 敏弘
附坂小 岡根 淳二 宇山 知昌

2. 運営について

1 平成2年度研究の重点

- ア 定例研究会の充実
- イ 地域教材の開発
- ウ 郡市間の交流
- エ 研究委員会の強化

2 具体的方法

- ・ 実践授業を通した研究を大切にし、広く現場の声を聞くようにする。定例研究会, 夏季研究集会, 県大会, 研究委員会に総力を結集する。
- ・ 定例研究会では, 理論を確実に授業に生かした研究とする。
- ・ フィールドワークは, 郡市持ち回りとし, 教材開発や社会的視野の拡大を目指して8月に実施する。
- ・ 「社会科教室」, 「香社研だより」を発刊する。ここでは実践のあと, 理論構築, 若い人の声等, 内容の工夫を図る。
- ・ 事務連絡費として, 年間700円とはがき15枚をいただく。
- ・ 各種研究会での学習指導案をまとめて, 研究を積み上げる。

研究主題

個性を生かし、基礎・基本を大切にする社会科学習

—— 子供同士が互いの考えを生かし、伸ばし合う学習を求めて ——

1. 個性を生かし、基礎・基本を大切にするとは

(1) 教育課程編成のための工夫、重点事項

新学習指導要領の総則に教育課程の一般方針が示されている。その中で配慮すべき事項として「学校の教育活動を進めるに当たっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ると共に、基礎的な内容の指導を徹底し個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」としている。

このことは、今後の学校教育がめざすべき基本方向を示したものであり、今回の学習指導要領の改正において、最も重視されなければならないところである。新しい学習指導要領の基本理念が学校教育をこれまでの「知識と技能を重視する教育」から自ら考え、主体的に判断し、行動できる能力の育成を中心とする教育へと質的な転換を遂げなければならないとの考えに立つものであることをしっかり受けとめねばならない。

この基本方向を受け、4項目の改善方針が示されている。この4項目を相互に関連づけ、構造的に位置づけ教育課程を編成することが重要である。さて、この基本方向が示すものと4つの柱を関係づけてみるならば、総則の冒頭部分全体が「自己教育力育成」を重視していることが分かる。このようなことから、「自ら学び変化に対応する力の育成」つまり、生涯にわたって自己を伸ばし、高めていこうとする「自己教育力」の育成が中心になってくるのである。この「自己教育力」の育成は「学び方」「生き方」の3つを柱とし、この3つをつなぐものとして、子供相互の学び合いを基礎に置きたい。この学び合いの中でこそ、子供が互いの個性を生かし合い、基礎・基本を身につけていくことができるものと考ええる。また、この自己教育力は、単に自分だけが高まることを意味しているのではなく、自他の関わりの中での相互の学び合いを大切にしながら、自他共に生きる中で自己を伸ばし、高めていくことを意味しているのである。

ここに「自己を高め、他も高める」学習の意味が見えてくるのである。また、このことは、自分の個性だけでなく、他人の個性をも認め、生かし合うことが含まれているのである。

(2) 社会科学習における基礎・基本とは

① 基礎・基本重視の背景

基礎・基本の修得は、個性の伸長（自己実現）と連動している。臨教審二次答申の

「生涯にわたり積極的に自己実現を図るための基礎・基本の修得」，「人間形成の基礎を培うために必要な基礎的・基本的な内容の修得の徹底的を図る」は，教課書の教育課程の基準改善の原点となっている。

この背景に，情報化，国際化，技術化する21世紀に生きる子供たちに必要な，創造力・思考力・判断力を育成する基盤は，基礎・基本の徹底にあると考える。

②基礎・基本とは，

(ア)基礎的・基本的内容について

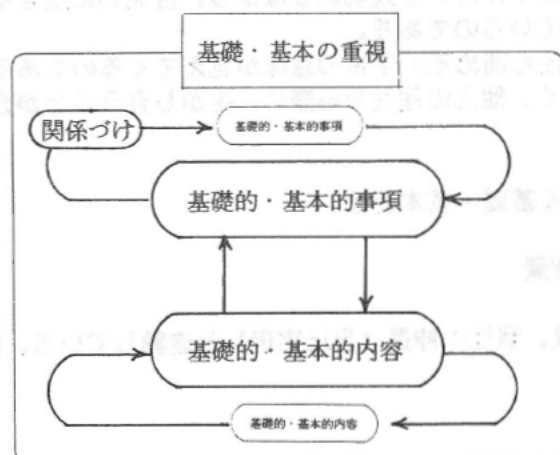
基礎的・基本的内容とは，具体を離れた抽象であるとか，個別を超えた普通であるとかいった「概念」ではないのである。基礎的・基本的内容とは，具体の中に生きて働いているもの，個別の事例の中にある生きて働いているものである。このようなことから，身につけていく基礎・基本の内容を明確にすることが主要になってくる。そして，基礎的，基本的内容を学んでいくには，当然基礎的事項を踏まえることが肝要である。例えて言えば，新しい工業の学習において，IC産業をとりあげたでしょう。この学習の基礎的，基本的内容は，「新しいIC工業は，従来の大都市や臨海に工業があったが，新しい工業においては，水，交通，人材などの条件が満たされれば，内陸部に工業立地が可能となる」である。この内容をとらえるには，どうしても大都市中心，臨海中心ということで，大阪，東京，尼崎，北九州等，またこの歴史を見ると鉄工業を中心とした，明治の施策がさらに社会的現象としては，鉄鋼業からIC工業へと工業が転換していること等を踏まえないと内容をとらえることはできない。

内容をとらえていく調べ学習は，決して，基礎的事項をおろそかにしてはならない。かと言って，基礎的事項を単なる用語として知識として覚える学習であってはならない。

用語と用語を関係づける力，基礎的事項を使っていく力，この基礎的事項を使える人間，すなわち，概念，傾向性として内容をとらえる力を大切にしなければならぬと考える。

ここに，生涯に渡って，学び続ける力が培われてくるのである。

(生きて働く基礎・基本)



ここで、基礎と基本の考え方について触れておく。基礎・基本はいろいろな立場で考えられるが、「基礎とは時間的な流れの中で次の学習に発展する前提として修得するもの、基本とは内容の中での本質的な要素及び全体構造の要となるもの」と考えたい。このことより、基本とは「その教科、単元の中核となるもの」、基礎とは「基本となるものを外から支えているもの」と区別する。

(イ) 基礎的・基本的な能力について

基礎的・基本的内容を含む一定の教材により、学習が展開されるわけであるが、学び方を学ぶ過程としての調べ学習においては、実物調べや表現を通してつかみ取ってくる能力も基礎・基本なのである。

そして、この基礎的・基本的内容（地理、歴史、公民）や様々な能力は、子供の成長、発達によって生成、発展等されるものであり、その系統は明らかにしておかねばならない。

③ 指導過程を明確にし、基礎・基本の徹底を図る。

基礎・基本の徹底を図るために、調べ学習の指導過程を明確にすることである。「調べ学習」は、子どもの思考と表現を重視するわけであるが、それが、子どものなすがままの調べであり、表現したことの発表であってはならない。基礎・基本の内容をどう身につけていくのか、そこでどんな学ぶ力としての思考力が働くのかを、明確にした調べ学習でなければならない。当然 こととして、個人差に応じた学習をどう取り入れるかも考えなければならない。そうしたことを明確にした学習の流れの典型として、指導過程を明らかにすることが、基礎・基本の徹底のために重要である。そこで、その過程を、

I. 「調べ問題」設定の段階、II. 個（グループ）の調べの段階、III. 自他の交流を図る段階、IV. 個別化・個性化を図る段階、V. 一定のねらい・価値を達成する段階とおき、展開していくのである。

(ア) 「調べ問題」設定の段階

前時とのつながりの中で青信号の時間が変わっているものと変わっていないものとをグラフ化しておき、この2つの違いから子どもの多様な問いをもとに調べ学習を設定する。

(イ) 個（グループ）の調べの段階

調べ問題について一人ひとりが、前時までに調べをしてきたことをもとにノートに青信号の時間が変わっていくくみを予想する。

(ロ) 自他の交流を図る段階

一人ひとりがノートに表現した絵図の中から代表的なものを抽出することによって3つの反応があることを知る。さらに、それぞれの反応の根拠を発表しあうことにより、自分と違う考えの良さに気づく。

(ハ) 個別化・個性化を図る段階

それぞれの反応ごとのグループに分かれて調べる際に、それぞれのグループの考えの深さの度合いにより、情報を得るためのパソコン、確かめを行うためのパソコンと、援助の仕方を工夫する。

(ニ) 一定のねらい・価値を達成する段階

車両感知器、信号機、交通管制センターのしくみを概念としてとらえ、「人」が「情報を集め」「情報を整理する」「情報を流す」という基礎・基本の用語を関係づけて、とらえる。

このように、調べ学習では、1時間の学習の指導過程の中でまた、観察（実物調べ）

－表現－観察（実物調べ）といった、連続的活動によって学習が進む中で、基礎・基本の内容や能力が見についていくのである。

④学び方における基礎・基本

調べ学習を実践する上で、私たちは常に子供の活動を中心にすえた学習展開を考えてきた。子供一人ひとりの学ぶ意欲を大切に、自ら学び方を学ぶ積極的な子供づくりを目指している。

ここで調べ学習の特質について再確認しておくこととする。

社会科「調べ学習」とは、子供の一人立ちを願い、発達課題を踏まえ、学習意欲を重視し、「調べ方法」「表現方法」の組合せにより、社会を見ていく学び方の確立を図る学習である。

さらに、学び方の確立を図る調べ学習の成立要因を述べる。

- ①子供の発達段階を踏まえた学習
- ②調べ方法の類型と、それに基づいて表現方法を生かした学習
- ③真の学習の問題となる「調べ問題」を設定した学習
- ④つまづきの手だてを表現した評価

（3）個性を生かすとはどうすることなのか

①一斉授業から脱却

一斉授業は教師の意図に基づき、教師の準備する教材を基に、学習者を全体としてとらえ、教師の説明と一部の子供の問答によって学習がすすめられていく。このような教師中心の学習では学習の原動力となる意欲や学び方も育ってこないのである。

②自己教育力の育成が個性を生かすことと連動する

昭和56年の中教審答申「生涯教育について」の中で、生涯教育とは、「自ら高めると同時に他を高めること」という二つが統合されているものを言うとして述べている。このことを今回の改訂との関わりでみると、生涯教育の基礎を養うには、自己教育力の育成が基盤となり、そのための具体策としては、子供相互が学び合う学習が必要となってくる。他社と自分の考えを出し合い、交流する中で互いの考えを生かし、伸ばし合う学習である。このようなことから、自己教育力を育成する教育は、個性を生かす教育を充実させることになってくるのである。

(1) 基礎基本の重視と個性の伸長

基礎基本の指導の徹底ということ、これまでは、全ての児童に同じ知識、能力、態度を一律に身につけさせることを考えていた。

基礎的・基本的内容は、社会の構成員が共通に習得することが必要な文化である。しかし、それが一人一人の児童の内に血肉化された時、基礎的・基本的知識と能力は、個性的で多様なものとならざるをえないのである。

全ての児童に基礎・基本をまず習得させ、その上で個性をのばすという考え方がこれまで一般的であった。しかし、基礎的・基本的内容を確実に身につけ、これを生かしながら社会の変化に主体的に対応できるものとなるためには、基礎・基本を習得する過程そのものの中で個性を生かすように努めなければならない。さらに、それを基盤として一人一人が自分の個性を生かしながら、学習していくことのできるよう指導し、援助することが、今後の学校教育が目指すべき方向となるのである。

(2) 人間形成としての基礎基本をとらえる

基礎基本というと「基礎学力」に直結させてとらえがちであり、教科の教育内容にのみかかわった用語として受けとめられがちであるが、その奥底では、人間形成と深くかかわっているのである。授業の目的は、単に教科内容の基礎基本を伝授することにとどまらず、それを通して人間形成を図ることである。

学校教育は、人間の一生を通じ、成長と発達的基础を培うものであるから、知育のみに片寄らず、徳育、体育の全面にわたって調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図るように基礎基本の徹底に努めなければならない。「何を学のか」「どのように学のか」「いかに生きるのか」の基礎基本が問われているのである。

さらに、「基礎的・基本的内容」については、これまでの考え方、とらえ方が今日の教育状況にそぐわなくなり、新しい内容を盛り込む必要が生じてきたことにも目を向けていかねばならない。

(3) 基礎基本と個性のとらえ方

前述したように、「基礎基本を身に付けること」と「個性を生かす」ということを対立的にあるいは矛盾的にとらえるのではなく、基礎基本の充実と個性を生かす教育を同時に進め、「個性を生かすための基礎基本」という考え方をとらなければならない。基礎基本を人間形成の基礎基本としてとらえるという視点に立つとき、それはとりもなおさず、個性の伸長ということにつながる。

「国民として必要とされる基礎基本」という表現にみられるように、共通的、一般的であるとするところがあるが、すべて、基礎基本が共通にあるのではない。一人一人の人間の成長、発達の過程において、その人独自に形成されるべき基礎基本がある。

基礎基本を一人一人の子どもに組み直して、主体的に表現したものが、個性であり、基礎基本は個性的、個別的であると考えることが大切である。

(4) 基礎・基本を押さえて、個性を伸ばす。

学習活動によって「個性を伸ばすこと」を目指すのであれば、まず一人ひとりの考えが大切に生かされていることが前提となってくる。つまり今ある考えが個人レベルにおいて連続的に変容していくことが、個性を伸ばすための必須条件となるわけである。そうすると個人レベルの考えを次の3点で見ていくことが大切となる。

① 一人ひとりの考えの差異となっている根拠は、見方が違うからか、情報が違うからか。

② その子どもにとって、この学習活動を通して伸ばしていきたい力や態度は何か。

③ 個人の考えを変容させるための活動や資料は何なのか、また誰と交流することで考えが広がっていったり、集約したりするのか。

このことを踏まえて個性を伸ばす学習活動を展開していくとすれば、子どもたちは学習そのものの中に自分を認め、ゆるみのない活動ができると考える。

2. 今までに香社研が主張してきたこと

子どもが主体的に活動する社会科「調べ学習」とは

(1) 「調べ学習の特質」

社会科「調べ学習」とは、

「調べ学習」とは、子どもの一人立ちを願い、発達課題を踏まえ、学習意欲を重視し、「調べ方法」「表現方法」の組み合わせによる学び方の学習である。

① 子どもの発達課題を踏まえた学習

自ら学ぶ学習は、学年の発達段階に即して調べ学習の発達課題があるのではないかと考えた。つまり、それぞれの時期にどうしても身につけておかなければ「一人立ちの教育」が達成できない課題を考え、次の様な調べ学習における発達課題を設定した。＜表2＞

6	5	4	3	2	1	学年
自 発 性		活 動 性		自 立 性		発達課題
自発的活動をうながす。 自他の関係の中で 矛盾克服のために 過ちを自己修正し、 一人調べを通して、 自発性を生かした		活動の内面化を図り、 自他の人間関係の中で 自分の態度を反省する。		役割分担による 共同作業によって 自立性を伸ばし、 自分の役割の在り方を 調整する。		社会科(調べ学習)における 発達課題

②調べ方法の4類型

調べ方法の類型と、それに基づく表現方法をいかした学習

調べ学習は、調べ方法と表現方法の学び方の類型を考えることによって、より具体的に、そして、より意味のある学習を展開しようと試みた。

この類型を設定するにあたっては、思考の類型を分析し、授業実践を通して、特質を明らかにした。表3が、調べ方法の4つの類型である。

4	3	2	1	
ひらめき調べ	論理調べ	思い出し調べ	実物調べ	調べ方法
意図的な調べでは解決できず、新しい発想から、とびこませるものがないかの調べであり、事実と事実との間を埋めるものをつかむ。 （調べ問題の基本型） ……別の点からさぐる	「つまり」「つまり」と調べる側の論理に基づく調べであり、事実間や背景とのつながりをつかむ。 （調べ問題の基本型） ……つながりを調べよう	意図的・目的的な調べであり、事実間に関連がなく、調べる意図・目的にあった事実をつかむ。 （調べ問題の基本型） ……さがしてみよう	生の現場で、実物に当たる調べであり、観察・見学・体験により感覚的・体感的に事実をつかむ。 （調べ問題の基本型） ……実物にあたり	おもな特質・特色

② 思考の類型

思考の高まりは、「調べ方法」により、調べていく過程にもあり、調べたことを表現する仕方、表現したものに働きかけて調べる中にもある。子供たちの思考は、どこで、どのように成立するのか、また、どう思考の高まりが期待できるのか、考えておく必要がある。

③「学習問題」を設定しない学習

学習問題は、個々の子どもの新鮮な見方や疑問意識を弱め、学習意欲をそいだ画一的な学習を生んできた。また、学習の連続性が失われ、追究の意識や過程がとぎれ、ばらばらな知識の理解に終わる弊害さえ起こす。

香社研では、このような学習問題にかえて、子どもの意識を重視した「学習の問題」となるよう、一人ひとりの追究意欲と追究過程を大切にする「調べ問題」を設定した。

④つまづきの手だてを重視した評価

調べ学習は教師の出番を断念し、子どもが主役になる学習である。したがって、教師の役割は、場の提供と、問題解決のための助言、援助をすることである。従来のように目標を裏がえしにした内容を評価欄に書く方法を改める。

発 見 思 考			関 係 思 考			類 別 思 考		思考の パターン
通 用	構 想	観 点 変 更	総 合	精 合	因 果	比 較	分 析	
事例にふくまれている因子を他の事例にあてはめることにより、認識を深化し、拡充する思考である。	ひらめき思考、創造的思考であり事実を組み立てながら見えないものを発見したり、全体像を描いていく思考である。	見方を変えることによって、因子の意味をとらえたり、二つの事象間の関係を発見する。	分析し二つ以上の因子をつないで、新しい概念を考えよう。	関係している事象間のつながりを考える。	事象間の原因—結果の関係を考える。	二つの事象を比較して、異同を考える。	事象を構成する因子を洗いだし、因子ごとに、事象の特質を考える。	特 質
香川の農家の土づくりの観点を生かし、たい肥はどうか、当りはめどと、庄内平野の土づくりを、香川の観点到る。	香川の農家の土づくりの観点を生かし、たい肥はどうか、当りはめどと、庄内平野の土づくりを、香川の観点到る。	みかんの木が思ったより低いわけを調べていく中で、まず、子供は予防がやりやすいとか、果を収穫しやすいといった仕事の便利さから考へてあると考へ、みかんの木と太陽との関係について操作させることにより、新しい観点を、自然条件との関係で、みかんの木の低いわけを調べる。	香川・秀吉・家康の三人の人物について一人調べの後、討論した。戦国時代に生きた三人の人物の生き方や業績を組み合わせることによって、戦国時代の統一には、強い武士だけでなく、進歩的な考えや先を見越した知識が必要であったことが考えられる。	安永の品物を広告から見つけ、広告の品Aの裏に「とりやすい」ところに置かれていることを発見する。	町内のごみステーションの位置は、自治会の話し合いの結果である。	スーパーマーケットとおやさんとくらべて、似ているところは、バックにつめて売っていることである。しかし、おいている品物の量がぜんぜん違う。	スーパーマーケットの特色を知るためには、実際に、店を見学して、品物の種類や量、並べ方、店にあるレジなどの施設、さらに、働いている人の数や服装を調べてくればわかる。	具 体 例

「調べ方法」と「表現方法」をつなぐ思考のパターン

3. 本年度の主張点

(1) 社会科の内容の見方、考え方 — 今、何故『調べ学習』なのか —

資料提示型学習は、何が 問題か

資料提示型学習の最も大きな課題は、画一性にある。従前の社会科学習においては、教師が教材の基礎・基本の内容に結びつく資料を準備し、それを提示することから学習がスタートした。こうした内容に直結した事実を資料として提示し、矛盾・対立の教師の論理で仕組んだ学習は、一見、華やかに見えるが、そこには大きな問題がある。即ち、こうした学習は、子供の個性を忘れた一律の子ども観に立ち進められている点である。一人ひとりの子どもの興味・関心は多様であり、見方や考え方に違いがあることは誰しも認めることである。しかしながら、資料提示の学習では、こうした子どもの個性的な物の見方や考え方が無視され、画一的な見方・考え方を生んでいくのである。

また、こうした一律の指導方法は、概念を効率良く教えるという点では一応の成果を挙げることができたものの、その概念は知識の域にとどまり、生き方の追求につながる見方や考え方までに高まらないという点でも問題である。一人ひとりの子どもの興味や関心を無視した教師の事実の提示、内容に直結した、限られた事実の提示は、子どもにとってイメージの描けない、また、感動や感情をともしない言葉、用語でしかない。用語をつないでも知識に終わり、一人ひとりの子どもが社会を見つめる生きて働く概念とはならない。

子どもの能力や特性を大事に、興味・関心に基づいた調べをもとに、それらの調べを関係づけながら概念化を図る学習が『調べ学習』なのである。

(2) 社会の変化に対応した内容の基礎・基本が考えられているか

良い授業は深い内容観に支えられる。今日の社会科学習がおもしろくないと子どもに受けとめられる背景には、教科書の内容、即ち、事項を理解させるといった内容の浅さにある。教科書にでてくる用語をきちんとおさえることが、基礎、基本の習得と考えがちであ

る。よく教科書を見せずに学習したりするが、教科書に書かれた事項をいかに工夫して並べても子どもには新鮮なものとしては写らないし、またこうした学習が子どもの認識を深めることにはつながらないであろう。

このようなことから、今、求められる社会科学習は、子ども一人ひとりが、社会事象に直接あたり、調べてきた事実をもとに、用語と用語を関係づけ、基礎的事項を使いながら、子どもが自分の論を組み立てていくことが大事になってきているのである。まさに、個性的に、論理立てていくことが、要求されているのである。

(2) 子どもが自分の論を組み立てる—意欲と問いの連続化—

① 大量の問いで構成する授業

「ごみ」という一つの社会事象を見た時、いったい子どもたちは、どのような疑問を持つだろう。

- ・ どのくらいでるのだろう
- ・ どこへ持っていくのだろう
- ・ だれが始末するのだろう
- ・ いつ始末するのだろう
- ・ どんなごみがあるのだろう

こんな素朴な疑問がたくさん出てくるはずだ。その中には、クラスの中ですぐに解決のつくものや家庭での調べで分かることもある。そんな疑問を解決した上で、まだ分からないことがたくさんある。その中でまた不思議になったことがある。そして、「ごみステーションの存在をしっかりと調べてみよう」という調べ問題が出てくるのである。

- ・ 何箇所ぐらいあるのだろう
- ・ どうして、種類に分けているのだろう
- ・ 曜日や時間が決まっているのはどうしてか

などと、また、たくさんの疑問から子どもたちの調べが続いていく。この中で出てきた疑問は、先の素朴な疑問と違ってかなり「ごみ」という社会事象の意味にせまることのできるように価値が高まったものである。「調べ問題」はこのようにたくさんのしかも多様な問いを含んでいくものでないといけなさと考えている。自分なりの観点で調べていくと、ごみ収集の仕組みが分かってくる。それを自分なりの方法で表現していく中で自分の持った問いをより深めたり広げたりしながらごみ収集の社会的意味が追求していくことができればよいのではないだろうか。

今、追求ということばを使ったが追求していくためには、自分なりの論理が必要なのである。「ごみを分けてだしているのだから、きっと処理するときも違うはずだ」といった考え方である。上学年になるとかなり問題の幅を狭めて追求する過程から意味の高いしかも見通しを持った問いを持てるようにしていきたい。

このように、自ら社会事象にぶつかる中で、「問い」が生まれてくるのである。また、この「問い」は、知的好奇心を刺激し、「意欲」を生むのである。意欲と問いは相互に交渉し合うものとなる。このように考えると、問いは子ど

もにとって、まさに、内からの学習の主体者としてのたしかめなのである。

② 子どものもつ教材性に着目しないと、子どもを生かせない。

今後の学校教育が目指す個性を生かす教育とは、一人ひとりの児童がもっている潜在的可能性（子供の教材性）を全体として望ましい方向に向けて具現化する営みであって、ある特定の能力を伸ばすよう働きかけるものではない。児童のもつ潜在的可能性（教材性）はそれぞれ独自のものである。それを一つのまとまりをもっとものとして伸ばす時、おのずと個性が生まれてくる。

教材性を生かす学習とは、児童が自分の個性を育て生かし、教師が子供の潜在的可能性を見出し、生き生きと生きることができるものとなれるよう、その発達を助ける営みである。

子どもの教材性に学ぶの考え方は、基礎・基本の徹底と個性重視というこれからの教育に必要な二つの課題をつなぎ、調和させる上で重要な働きをするものである。

それでは「教材性に学ぶ価値」について考えてみよう。

学習の価値には、素材そのものに学ぶよさがある。つまり、子どもたち自身の手による問題解決の結果、得られた学習内容そのものに対して、子どもが新しくより拡大された認識に立つことができるというものである。しかし学習の過程はそれだけではない。学習を通して得られる学び合う喜び、高め合う喜び、そこから友達のよさを知る喜びなどは、学習の過程で得られるもので、学校教育の大きな使命の一つである。知識を学ぶことは一人でもできる。しかし、その知識を得る過程を学ぶことは集団という組織で互いに異なったものの見方や考え方があるからこそできることであり、まさに生きた社会や人間として生きる力を学ぶことになる。

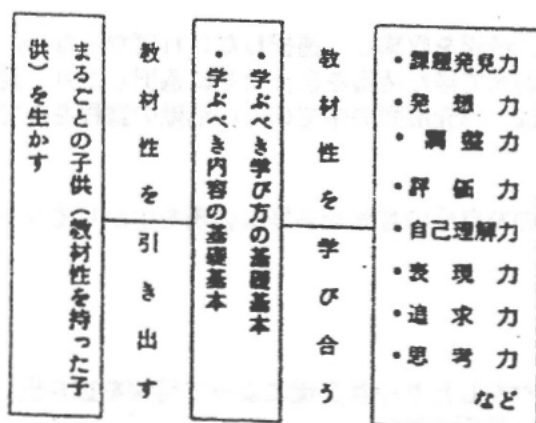
つまり、教材性に学ぶことはまるごと子どもに学ぶことであり、内容だけでなく、学習の過程を学ぶことでもあり、そのことを通じて人間性や社会性を学ぶことができるところに、もう一つの学習していく価値があるのである。

4 教材性とは何か

「教材性」とは、子どもの中にひそんでいる学ぶべき内容や学び方である。私たちは、学ぶべき内容の基礎・基本や学び方の基礎・基本は、子どもたちの中にこそあるのではないかと考えている。

これまでは、どちらかと言えば内容を知的に理解させようとする内容重視の傾向が強かったために、子どもの中にひそむ力は、個性重視と言いながら、十分目的に取り扱われずに、内容の理解を深めるための手段としてのみ機能していた。したがって、人間性を高めていくことそのものからは、遠ざかっていた

と言えよう。

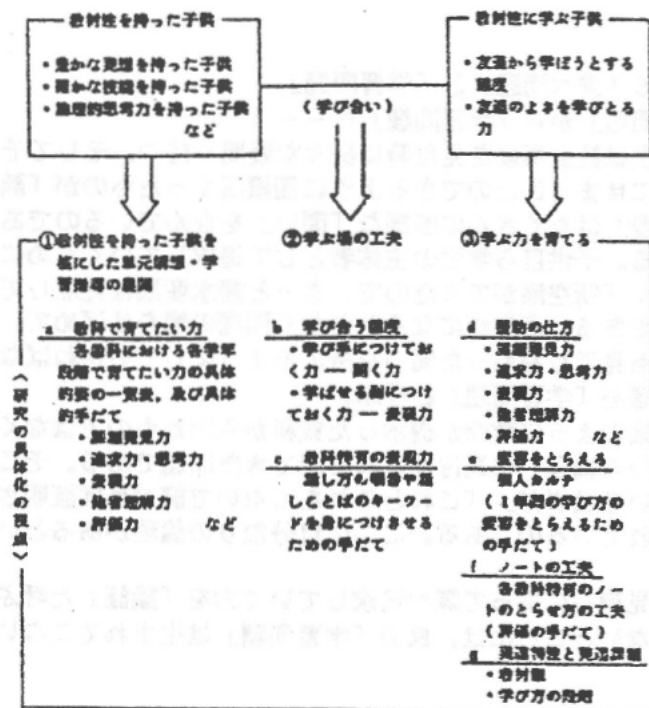


このように、学習が個人のものとなっていなかっただけでなく、本当の意味での個性の重視がなされなかったことから、個々の違いが個々の良さとして発揮されず、そのために十分な個性化や社会化が図れなかったところに、これまでの教育の問題があったと言える。

学習の場は、個人が個性を固有化していけるだけの開かれたものでなければならない。また、そこにおいてこそ、学ぶべき内容や学び方などが、その者にとって価値あるものとして共有化されていく。

子どもの教材性に学ぶとは

子どもが子どもの教材性に学ぶ学習とは、子どもをまるごととらえ、先に述べたような教材性を持った子どもを引き出し、そして、その子の個性を生かすような学習である。そこで、子どもの教材性に学ぶ学習指導を進めるに当たって、研究の視点を次のようにまとめた。



③子供が論理を組み立てるには、情報を収集し、選択しなければならない。「問い」と「論証」の調べ学習では、自分が調べて得た情報を自分なりに選択したり、組み立てたりする活動を重視している。ここでは、単元展開の中でのその活動の課程をみていく。

1 情報収集

実物調べや図書から調べたものを自分の言葉や多様な表現を生かしてノートに記録していく。

2 情報の整理（情報の選択）

自分の問題に向かって、再調べをしたり相互交流によって情報を抜き出したりする学習を通して、情報の整理をする。（情報の純化）

3 情報との対話 ——自分の問いを深めていく——

精選された情報と自分とが対話をする場である。

4 自分の考えを構想する

学習問題に対する自分の考えを文章や絵にしていく過程で、収集した情報を自分の考えに従って選択したり、組み立てたりして自分の考えを構想する。答えを捜すのではなく、自分の主張として作りあげていく。

このように1～4の過程の中で他者と情報交換し、自分の考えを主張していくことで「自分の論理」を構築し「情報の創造」がなされていくのである。

④ 調べ学習における「調べ問題」と「学習問題」

—— 「調べ問題」から「学習問題」へ ——

前述したように子供は社会事象を見た時に様々な疑問を持つ。そしてそれらの疑問をもとに社会事象の意味にせまることのできるように価値高まったものが「調べ問題」である。このように「調べ問題」はたくさんの多様な「問い」を含んでいるのである。次に学習問題についてみる。子供自ら学習の主体者として追求していくためには、自分なりの論理が要求される。「新空港ができたので、きっと農水産業は発展していくにちがいない」といった考え方である。高学年になるとかなり問題の幅をせばめて、追求する過程から意味の高い、しかも見通しをもった問いを持てるようにしていかなければならない。このような特質をもった問題を「学習問題」と呼ぶ。

この学習問題は従来のように教師が提示した資料から出たものではなく、自分が調べ追求する中から出る「自分の論理」に裏付けされて出てきた問題である。そこには、必ず「○○だからこうなっているはずだ」「これとこれをつないで調べれば証明されるはずだ」といった見通しが含まれているのである。ここに自分なりの論理があるということなのである。

自分なりの論理、見通しに従って調べ追求していく力を「論証」と呼ぶ。この「論証」の力のないところには、真の「学習問題」は生まれてこない。

のである。

論証の授業

わたしたちが最終的にめざすものは、自分なりの論理・見通しのある学習問題を持ち、情報を収集し、確実に論証していける力である。つまり、自分が必要な知識を創りあげていく力である。一人ひとりが論証の因子を見つけ出し、見通しを持って調べていくためには、この「論証する力」もまた学び方の基礎・基本と考えられる。実際の授業の中では

- 1 中学年の場合は、事実を丹念に見学し、何度も調べながらそのものの持つ意味が分かる。

大量の疑問
↓
多様な問いを含む
調べ問題

- 2 見えるものを丹念に調べながら、見学できないものに対して見通しを立てて調べる。

見通しのある
学習問題
↓

- 3 見通しを持って調べる中で、自分の探し当てた因子を組み立てて、構想する。

自分の論理

見通し
論証

構想力
創造力

実際に目で見て調べたことばかりで考えていたのでは、「論証する力」は身についていかない。そのことをもとにして、見ていないものへの見通しを立てることを考えていかなければ、知識が知識だけに終わり、行動するための知識へととは、ならないのである。このように「問う力」と「論証する力」は、学習を追求していく上で相互に交渉し合うもので、重要な意味を持つ力なのである。ここでいう「学習問題」は、調べ問題から「論証する力」で深まり、狭い範囲でしかも事象の社会的な意味の本質に迫っていく内容を含んだものとなっている。この授業の中では、問う力と論証する力は単に思考力の問題ではなく、内容追求とも深くかかわっているのである。

⑤ 教師の援助活動

遅れている子
進んでいる子

教師の援助活動はいかにあるべきか

このように、自己評価しながら自らが伸びていく学習を考えていく時、教師はいかなる援助活動をしていかなければならないのだろうか。以前のように、遅れて進む子どもに対して、教師の考える到達目標に向かうためだけの個別援助であってはいけないのではないだろうか。自己評価の能力を高めていくという視点からもう一度教師の援助活動を見直してみたい。

(1) 子どもをよく見つめる

子どもたちが自分自身を振り返って見つめ、目標値を持ち、学習を進めている時、やはり教師もしっかりと子どもを見つめる必要がある。しかし、これまでは、子どもが教師の考える目標のどの段階に達しているか、目標達成のためにどこでつまづいているかということに重視していた傾向にある。子どもたちがどのような問いを持ち、どのような目標値を持って進もうとしているのかという観点からもう一度見つめ直したい。そうすると、今までの「よくできる・だいたい・もう少し」といった見方から、変化してくるのではないだろうか。

(2) 問いを生み、新たな目標値を作り出せるようにする

自分の論証をもっと確かなものにしたい。「もっと、もっと」という過程を作り出していくことが教師の大きな援助活動であると考え、そのためには、

① 子ども相互の交流の場を大切にする

子どもたちが自分で調べ、論証をしている過程で、他の子どもたちとの学び合いができる場の工夫をしていく必要がある。常に他の子どもの学習の様子がわかることが、子どもにとって大きな刺激となっており、自分の考えを評価したり、進めたりすることができる。一人で調べながらもすぐに他の様子がわかったり、ミーティングをしたりできる学習環境が望ましい。

② 自己批判の能力をつける

子ども相互の中では行われにくいレベルでの「ゆさぶり」が、教師の出番であると考え、子どもたちが、自分の論証を「おかしいな」と感じ、新たな「問い」そして、高い目標値を持てるように、子どもたちが見過ごしている情報を提供する場の設定である。

(3) 自分の伸びがわかり、感動できる

① 自分の目標値をはっきりと明示する

「ここがわからない。」「こうしたい。」といった目標値をはっきりと明示することによって、学習の後を振り返り自分の伸びをはっきりと確かめることができる。ノートやカード等を工夫して、その方法を示すことも始めは教師の援助が必要であろう。慣れるに従って、だんだんと子どもたちに工夫させていきたい。

② 目標値に達成できるための援助

子どもの一人ひとりの目標値をよく理解し、それに合わせた援助が必要となってくる。子どもたちは、ほんの少しのヒントで、「こうしたい」と思っていることが自分の力で達成できるのである。情報の提供、学び方のヒントなどその子の目標値をよく知って援助したいと考える。

(4) 教師の評価

子どもたちの自己評価は、他者からの評価の中で育つと考えられる側面もある。そのように考えると、教師が子どもに対する評価も大へん重要なものである。この時、「ここができていないから直そう」といった治療モデルの評価から「ここがよくできているね」といった最恵モデルの評価へと視点を移していくことが子どもの個性や能力を伸ばすためには必要なことであろう。そして、最恵モデルの評価をしていくことが、自己評価をして新しいものを生み出す自信やエネルギーになっていくのだと考える。

(3) 自己をみつめ、伸ばし、学び合う（自己評価）

2 自己評価で進める授業とはどのようなものか

問いと論証の調べ学習では、学習は「問い」を持つことから出発する。では「問い」を持って学習を進めるとはどのようなことであるか考えてみたい。「問い」の中には、「これは何だろう」「どんなことが知りたい」「なぜだろう」「どうなっているのだろう」と事象そのものを問うものから、事象の裏側に潜む意味を問うものや事象間のつながりを問うものまで様々なものがある。「問い」を持つということは、現在の自分の段階に満足していないということを示すものである。新たな段階へ向上しようとする姿なのである。ことばを変えれば「問い」は、「このようになりたい」と考える子ども一人ひとりの次への目標を指し示すものなのである。「問い」が深まっていくことは、子どもの目標値が高くなっていることにほかならない。自分が調べ、論証した事柄についても、「あれっ、そうかな」「これでいいのかな」と自己批判することにより、目標値はさらに高くなっていく。次々に新たな「問い」を持って論証を進めていく学習とは、自分の考えを吟味し、自己批判しながら（自己評価しながら自ら伸びていく）学習を進める姿なのである。

ここで大切なことは、子どもはあくまでも自分の論理に従って学習を進めているということである。つまり、自分なりの基準や視点から、目標を定め、評価しているのである。決して、他の外的な基準（教科書等）に照らして、どうであったかという自己評価ではないことである。このことが、梶田毅一氏が述べている「内的論理の文脈の中での自己評価」であると考えられる。そして、自分の基準に対する達成感が大きいほど、子どもの内面での変化・感動となり、次の学習への大きな意欲につながっていくと考える。

3 「問いと論証の調べ学習」の中で培われる自己評価力

自ら学ぶことを「自己評価」を中心に述べてきた。そこで、自己評価ができるということとはどのようなことか、もう一度整理してみると、次のような2つの側面が考えられる。

(1) 新たな問いがもてること＝自己批判力

新たな「問い」を持てるとは、

- ① 子どもたちとの対話から（相互交流の中で）
- ② 教師との対話から
- ③ 自分との対話から

「これでいいのだろうか」と自己批判し、高い目標値を持って学習に取り組めることである。

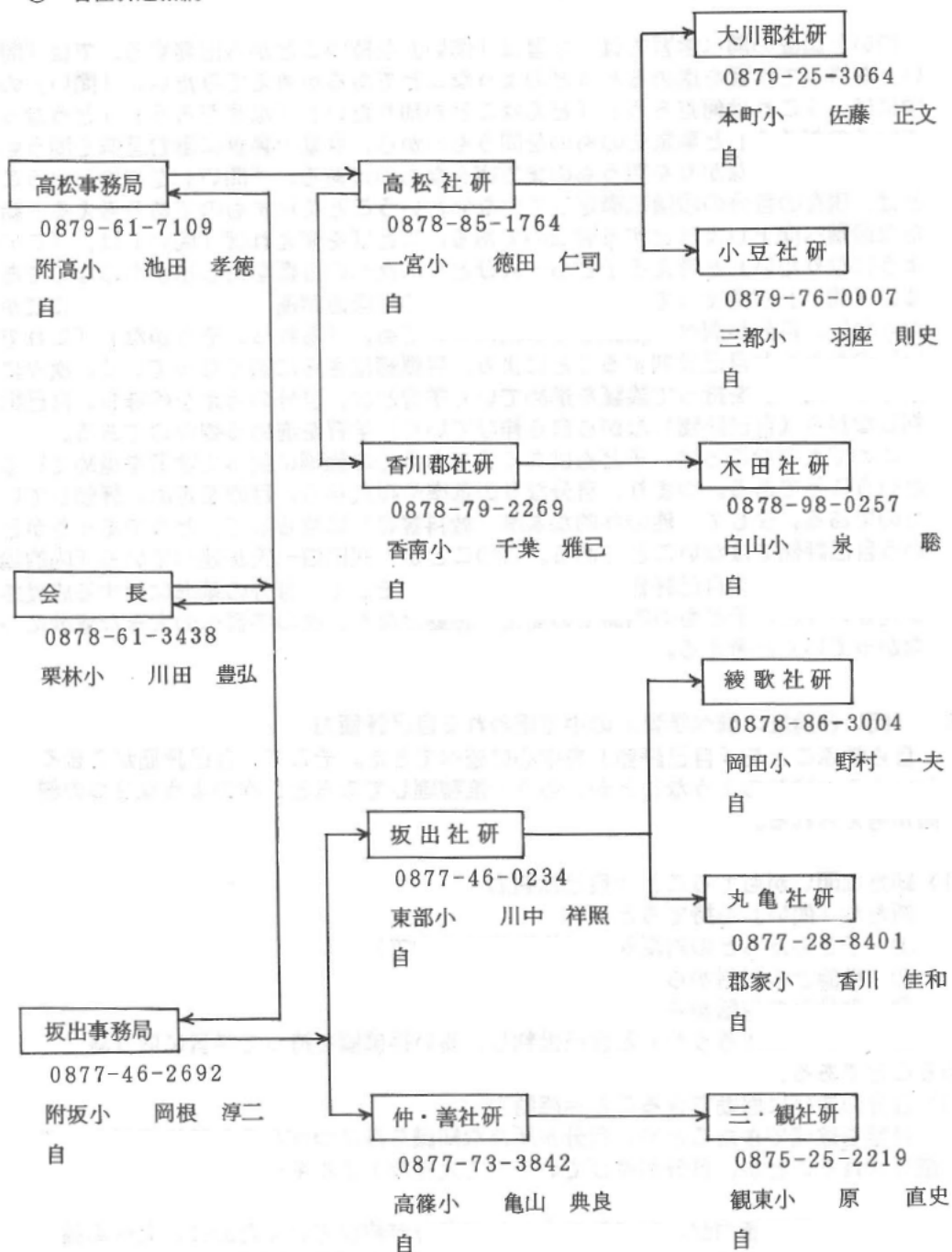
(2) 自分の伸びに感動できること＝感動力

目標を達成できたことや、自分が新たな知識を身につけたこと等に喜びを感じられることが、自分が伸びていく上で大きなエネルギーとなっていく。

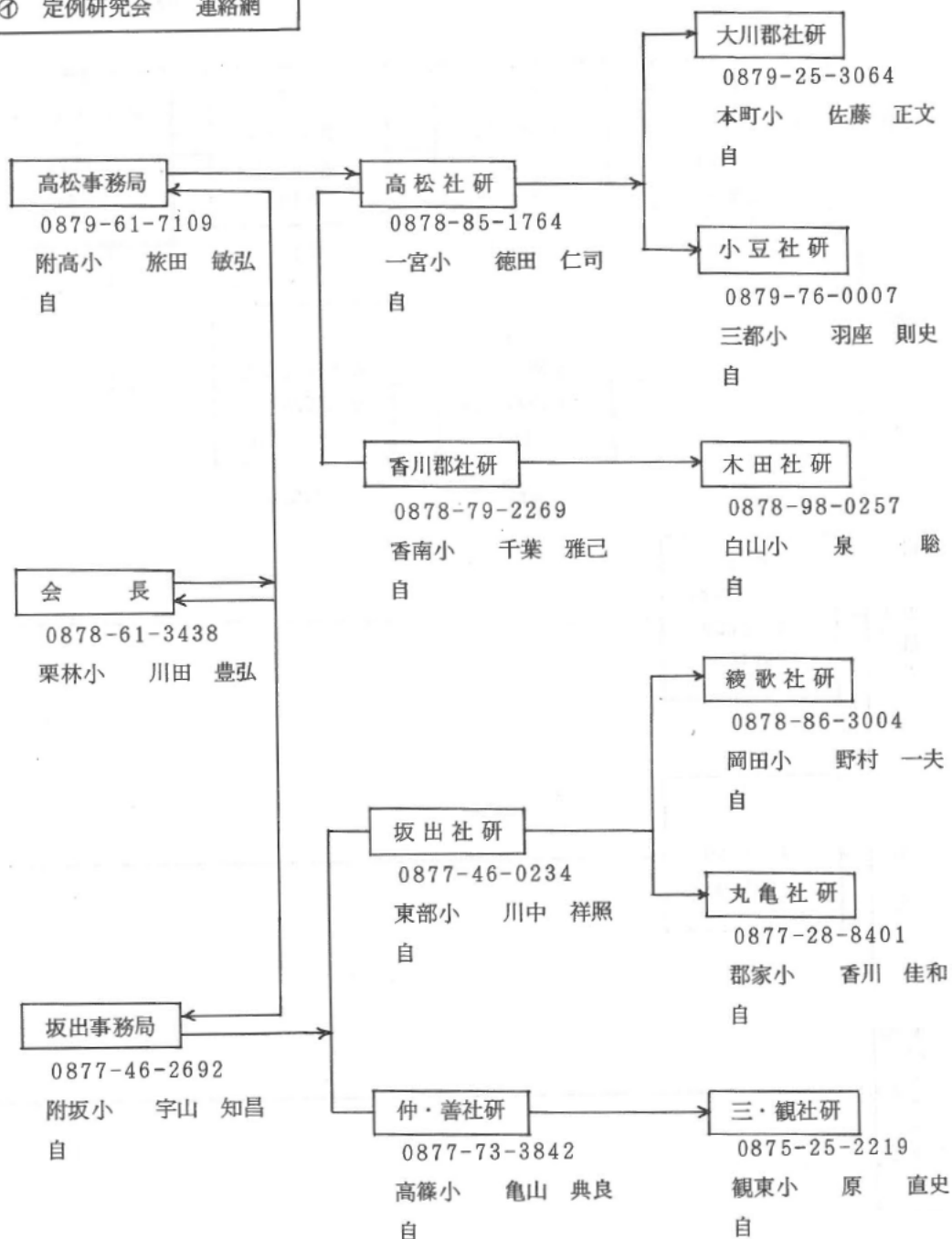
このような自己評価力が、自己教育力として自分が伸びていくために、大へん重要なものであると考える。 自己教育力を育成するための自己評価

4. 連絡網

⑦ 香社研連絡網

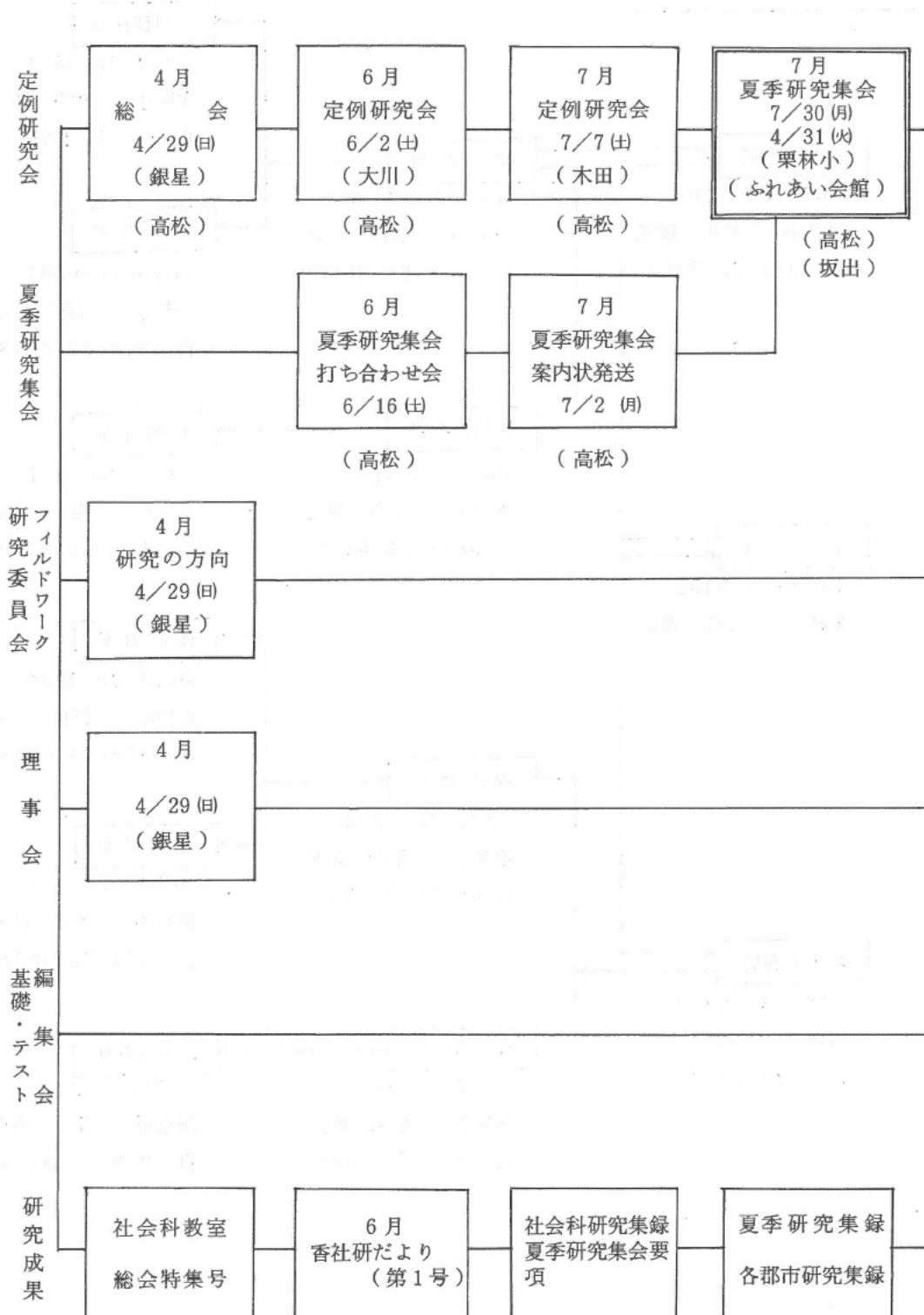


① 定例研究会 連絡網

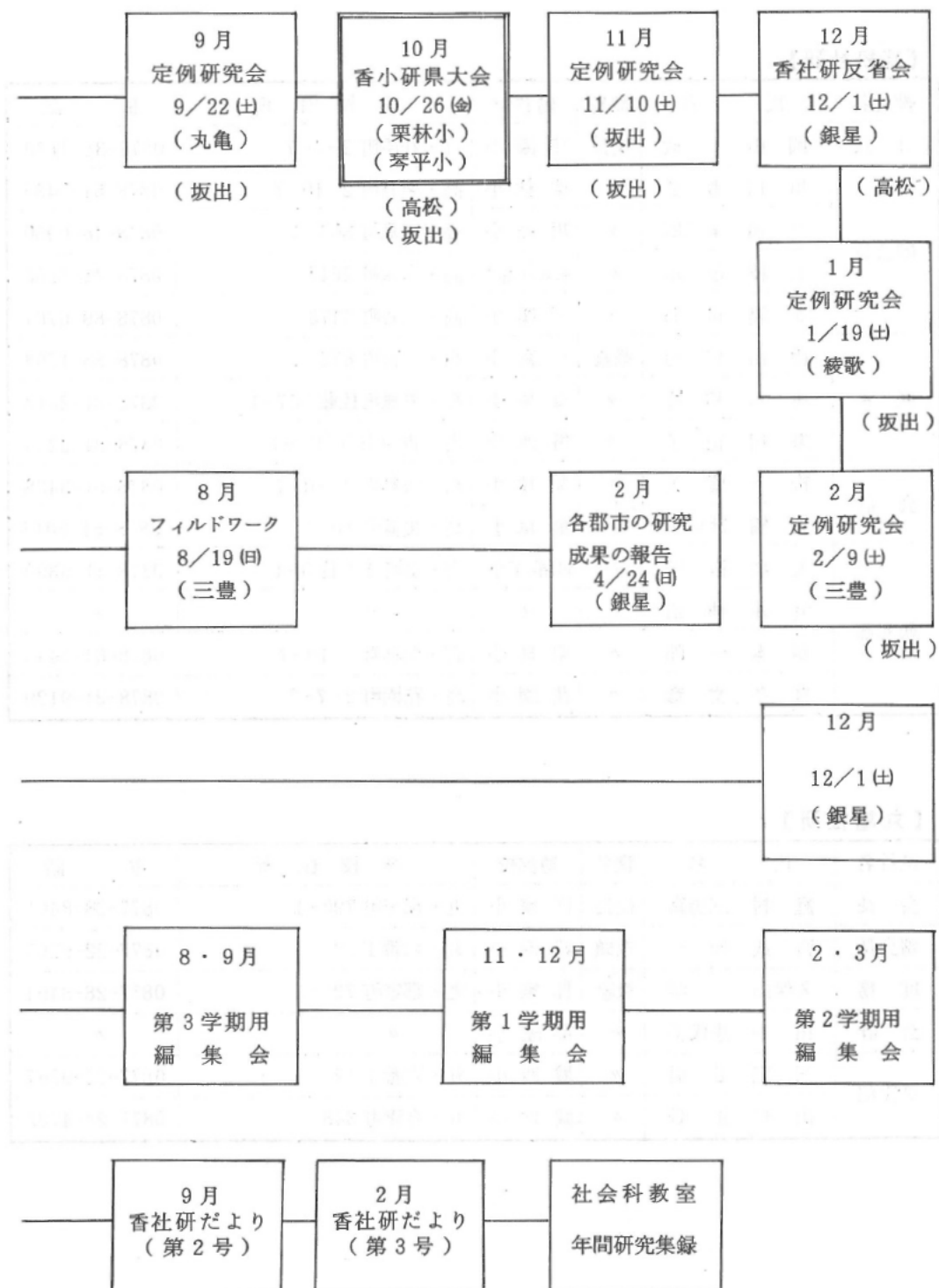


3. 年間計画案

平成 2 年 度



の 年 間 計 画 案



平成2年度 郡市社研役員名簿

【高松社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	岡 田 武	校長	花園小	高・花園町2-7-7	0878-31-9129
副会長	川 田 豊 弘	〃	栗林小	高・栗林町2-10-7	0878-61-3438
	合 田 圭二郎	〃	川島小	高・川島町864-1	0878-48-0050
	上 枝 茂 雄	〃	木太北部小	高・木太町2613	0878-31-4150
	寺 嶋 司 郎	〃	三溪小	高・三谷町2173	0878-89-0767
庶 務	徳 田 仁 司	教諭	一宮小	高・一宮町672-1	0878-85-1764
	蓮 本 和 博	〃	鬼無小	高・鬼無町佐藤607-1	0878-81-2413
	黒 川 紀 子	〃	香西小	高・香西南町703-1	0878-81-3214
会 計	松 下 繁 美	〃	栗林小	高・栗林町2-10-7	0878-61-3438
	大 橋 けい子	〃	亀卓小	高・亀岡町10-1	0878-61-2013
研究部	大 島 裕 子	〃	四番丁小	高・番町1丁目5-1	0878-51-8390
	亀 井 伸 治	〃	〃	〃	〃
	藤 本 一 郎	〃	栗林小	高・栗林町2-10-7	0878-61-3438
	喜 多 文 彦	〃	花園小	高・花園町2-7-7	0878-31-9129

【丸亀社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	庭 村 三勇喜	校長	郡家小	丸・郡家町790-1	0877-28-8401
副会長	宮 武 順 一	教頭	城西小	丸・六番丁12	0877-22-9267
庶 務	久保山 学	教諭	郡家小	丸・郡家町790-1	0877-28-8401
会 計	田 中 志代美	〃	郡家小	〃	〃
研究部	三 宅 弘 信	〃	城西小	丸・六番丁12	0877-22-9267
	山 野 正 登	〃	城坤小	丸・今津町348	0877-24-4705

【坂出社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	大 林 照 男	校長	加 茂 小	坂・加茂町 1099	0877-48-0601
副会長	曾 根 照 正	〃	府 中 小	坂・府中町 1193	0877-48-0610
庶 務	川 中 祥 照	教諭	東 部 小	坂・室町 1-1-21	0877-46-0234
	虫 本 利 久	〃	金 山 小	坂・谷町 3-1-23	0877-46-2329
会 計	野 村 亮 子	〃	東 部 小	坂・室町 1-1-21	0877-46-0234
研究部	川 中 祥 照	〃	〃	〃	〃
	吉 田 和 弘	〃	林 田 小	坂・林田町 2191	0877-47-0270

【小豆社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	田 中 敬 司	校長	湊 崎 小	小・土庄町湊崎	0879-62-0072
副会長	植 村 孝一郎	教頭	四 海 小	小・土庄町伊喜末	0879-64-5051
庶 務	羽 座 則 史	教諭	三 都 小	小・池田町蒲野	0879-76-0007
会 計	川 井 千代子	教頭	〃	〃	〃
研究部	岡 本 英 孝	教諭	土 庄 小	小・土庄町本町	0879-62-0068

【大川社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	安 部 武	校長	三本松小	大・大内町三本松 862-1	0879-25-2664
副会長	藤 井 洋 一	〃	多 和 小	大・長尾町多和字助光 30-1	0879-56-2002
	吉 岡 浩 一	〃	神 前 小	大・寒川町神前 1615	0879-43-2124
	亀 井 達 男	〃	津 田 小	大・津田町津田 144	0879-42-2047
	池 田 泰 造	〃	引 田 小	大・引田町引田 2068	0879-33-2036
庶 務	佐 藤 正 文	教諭	本 町 小	大・白鳥町松原 167-1	0879-25-3064
会 計	大 岡 真 海	〃	丹 生 小	大・大内町町田 135	0879-25-3504
	高 田 宏 隆	〃	相 生 小	大・引田町南野 204	0879-33-3627
研究部	三 井 重 彰	〃	多 和 小	大・長尾町多和字助光 30-1	0879-56-2002
	三 好 憲 昭	〃	鴨 部 小	大・志度町鴨部 1137	0878-95-0030

【木田社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	北 堀 豊 清	校長	牟 礼 小	木・牟礼町大町 1560	0878-45-9239
副会長	高 尾 吉 臣	教頭	牟礼北小	木・牟礼町大字牟礼 2900-1	0878-45-5742
庶 務	泉 聡	教諭	白 山 小	木・三木町下高瀬	0878-98-0257
	脇 広 久	〃	田 中 小	木・三木町田中 4620-2	0878-98-0501
会 計	柏 徹 哉	〃	牟礼南小	木・牟礼町大町 115	0878-45-9324
研究部	〃	〃	〃	〃	〃
	栗 原 康 孝	〃	白 山 小	木・三木町 352-1	0878-98-0257

【香川社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	筒 井 勇	校長	大 野 小	香・香川町大野 1045-1	0878-89-7360
副会長	鎌 野 修	教頭	塩 江 小	香・塩江町安原上東 365	0878-93-0027
庶 務	千 葉 雅 己	教諭	香 南 小	香・香南町横井 1008	0878-79-2269
会 計	篠 田 美津子	〃	浅 野 小	香・香川町浅野 3088	0878-31-3470
研究部	野 口 泰 三	〃	〃	〃	〃
	小 原 敏 昭	〃	上 西 小	香・塩江町上西 2461	0878-89-7474

【綾歌社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	川 上 保 直	校長	国 分 寺 小 北 部 小	綾・国分寺町新居 1880	0878-74-1154
副会長	尾 崎 幸 男	〃	富 熊 小	綾・綾歌町富熊 1227	0877-86-2010
	高 畠 優	〃	山 田 小	綾・綾上町山田上甲 1494-1	0878-78-2004
	土 岐 道 憲	〃	飯山北小	綾・飯山町川原 1874	0877-98-2020
庶 務	野 村 一 夫	教諭	岡 田 小	綾・綾歌町岡田下 217	0877-86-3004
会 計	大 西 浩 史	〃	〃	〃	〃
	唐 木 美千子	〃	国 分 寺 小 北 部 小	綾・国分寺町新居 1880	0878-74-1154
研究部	波 多 誠	〃	〃	〃	〃
	花 房 長 広	〃	滝 宮 小	綾・綾南町滝宮 1100	0878-76-1183

【仲多度・善通寺社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	長 尾 浩	校長	仲南東小	仲・仲南町七箇 2529	0877-77-2140
副会長	梅 木 正 信	教頭	竜 川 小	善・原田町 306-1	0877-62-0705
	山 下 清 明	〃	豊 原 小	仲・多度津町南鴨 704	0877-32-2050
	水 卜 由 文	〃	四 条 小	仲・満濃町四条 728	0877-73-5514
庶 務	亀 山 典 良	教諭	高 篠 小	仲・満濃町東高篠 139	0877-73-3842
	前 川 保 雄	〃	琴 平 小	仲・琴平町 145-1	0877-73-2831
会 計	石 井 恭 子	〃	満濃南小	仲・満濃町吉野 74	0877-79-2110
	小笠原 民 子	〃	白 方 小	仲・多度津町奥白方 1142	0877-32-3331
研究部	片 井 功	〃	多度津小	仲・多度津町栄町 3 丁目 1-9	0877-33-1616
	高 橋 義 徳	〃	東 小	仲・琴南町川東 919	0877-84-2333

【三豊・観音寺社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	石 井 英 雄	校長	松 崎 小	三・詫間町松崎 722	0875-83-2856
副会長	岸 上 孝	〃	観 東 小	観・観音寺町甲 670-2	0875-25-2219
庶 務	原 直 史	教諭	〃	〃	〃
	佐 長 健 司	〃	観 南 小	観・観音寺町和甲 1186-2	0875-25-4675
会 計	大 西 久美子	〃	本 山 小	三・豊中町本山甲 1893	0875-62-2125
	十 鳥 博 子	〃	観 南 小	観・観音寺町和甲 1186-2	0875-25-4675
研究部	平 川 博	〃	麻 小	三・高瀬町下麻 1209-2	0875-74-6237

平成2年度 香社研会員名簿

高松市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	760	瀬戸内町18-2	日新小	4	西川裕子	0878 61-5702	
2	"	"	"	3	南原志伸	"	
3	"	"	"	5	日下哲也	"	
4	"	錦町2-14-1	二番丁小	3	向永和資	51-3741	
5	"	番町1-5-1	四番丁小	3	大島裕子	51-8390	
6	"	"	"	6	亀井伸治	"	
7	"	"	"	2	金崎美穂	"	
8	"	"	"	3	笠井裕子	"	
9	"	"	"	4	葛西秀樹	"	
10	"	亀岡町10-1	亀阜小	教頭	植松勝	61-2013	
11	"	"	"	6	人橋けい子	"	
12	"	"	"	4	松川幸代	"	
13	"	"	"	2	菅小百合	"	
14	"	"	"	2	高橋夕香里	"	
15	"	栗林町2-10-7	栗林小	校長	川田豊弘	61-3438	
16	"	"	"	教頭	伴文夫	"	
17	"	"	"	5	松下繁美	"	
18	"	"	"	6	藤本一郎	"	
19	"	"	"	4	藤田忠彦	"	
20	"	"	"	6	市原茂幹	"	
21	"	"	"	5	緋田洋子	"	
22	"	"	"	3	鬼無敬子	"	
23	"	"	"	6	太田幸	"	
24	"	花園町2-7-7	花園小	校長	岡田武	31-9129	
25	"	"	"	教頭	宮武利雄	"	
26	"	"	"	5	喜多文彦	"	
27	"	"	"	6	橋本英敏	"	
28	761	伏石町845-1	太田小	6	上井嘉	65-4433	
29	"	"	"	1	宮崎直子	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
30	761	伏石町 845-1	太 田 小	5	福 家 正 人	0878 65-4433	
31	760	木太町 3480-1	木 太 小	2	熊 田 美 栄	61-6337	
32	761-01	高松町 398	古高松小	教頭	吉 本 正 隆	41-9204	
33	"	"	"	教頭	林 靖 子	"	
34	"	"	"	4	森 仁 志	"	
35	"	屋島西町 1205-1	屋 島 小	3	山 地 順 子	41-1538	
36	"	"	"	5	小 西 宏 幸	"	
37	761-03	前田東町 819-3	前 田 小	3	久 保 範 高	47-6562	
38	"	東山崎町 207-1	川 添 小	教頭	谷 本 能 子	47-6055	
39	"	"	"	障害児	木 村 ますみ	"	
40	"	"	"	3	豊 島 一 郎	"	
41	"	林町 1108-1	林 小	3	岩 崎 正 敬	65-6250	
42	761-04	三谷町 2173-1	三 溪 小	校長	寺 島 司 郎	89-0767	
43	"	"	"	障害児	古 沢 博 美	"	
44	"	"	"	6	陶 山 真 司	"	
45	761	仏生山町甲 2461	仏生山小	4	佐々木 誠	89-0549	
46	"	香西南町 703-1	香 西 小	5	宇喜多 孝 明	81-3214	
47	"	"	"	2	黒 川 紀 子	"	
48	"	"	"	2	大 前 浩 美	"	
49	"	"	"	3	多 田 香 織	"	
50	"	一宮町 672-1	一 宮 小	5	藤 岡 邦 幸	85-1764	
51	"	"	"	6	徳 田 仁 司	"	
52	"	"	"	2	日 下 浩 子	"	
53	"	多肥上町 902-2	多 肥 小	校長	徳 山 久美子	89-0537	
54	"	"	"	5	岩 倉 由 紀	"	
55	"	円座町 1630-2	円 座 小	4	多 田 明 広	85-2547	
56	"	御厩町 816	檀 紙 小	6	福 家 親 夫	85-1715	
57	"	鬼無町佐藤 607-1	鬼 無 小	5	蓮 本 和 博	81-2413	
58	"	"	"	5	富 永 淳 一	"	
59	"	生島町 345	下笠居小	6	森 本 義 臣	81-3011	
60	"	"	"	3	田 中 知 子	"	

番号	郵便番号	学校所在地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
61	760	男木町 165	男 木 小	教頭	関 根 建 一	0878 73-0506	
62	"	"	"	5	溝 内 哲 也	"	
63	761-04	川島町 864-1	川 島 小	4	寺 島 幹 人	48-0050	
64	"	"	"	3	増 田 泰 己	"	
65	"	十川西町 366-5	十 河 小	4	嶋 村 徳 子	48-0319	
66	761-05	西植田町 2337	植 田 小	4	蘆 原 秀 稔	49-0103	
67	760	松縄町 807-1	中 央 小	教頭	上 枝 幸 紀	66-2938	
68	"	木太町 1530-1	木太南小	4	小 田 博 史	66-7295	
69	"	"	"	3	安 部 幸 則	"	
70	761-01	屋島西町 2469	屋島西小	初任	山 下 晃	41-1063	
71	"	"	"	5	井 上 泉	"	
72	"	"	"		藤 田 和 代	"	
73	"	"	"	5	矢 野 ひとみ	"	
74	760	木太町 2613	木太北部小	校長	上 枝 茂 雄	31-4150	
75	"	"	"	4	姫 田 朋 樹	"	
76	"	"	"	3	江 口 真 紀	"	

丸 亀 市

番号	郵便番号	学校所在地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	763	中府町 5丁目 15-1	城 乾 小	2	長 原 朱 美	0877 22-8158	
2	"	"	"	4	池 内 右 典	"	
3	"	"	"	1	山 谷 元 子	"	
4	"	"	"	4	大 西 直 人	"	
5	"	今津町 348	城 坤 小	1	大喜多 峯 子	24-4705	
6	"	"	"	4	山 野 正 登	"	
7	"	"	"	5	合 田 吉 宏	"	
8	"	"	"	3	北 分 英 樹	"	
9	"	"	"	6	香 川 久 子	"	
10	"	"	"	4	片 山 恭 子	"	
11	"	"	"	1	堀 金 美 子	"	
12	"	瓦町 75	城 北 小	5	香 川 敦 子	24-4700	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
13	763	瓦町 75	城 北 小		石 川 裕 之	0877 24-4700	
14	"	六番丁 12	城 西 小	教頭	宮 武 順 一	22-9267	
15	"	"	"	3	三 宅 弘 信	"	
16	"	"	"	5	梅 谷 旬	"	
17	"	"	"	3	田 井 節 子	"	
18	"	田村町 973	城 南 小	5	坂 口 智 彦	24-6177	
19	"	土器町 98	城 東 小	教頭	詫 間 健太郎	24-4703	
20	"	"	"	専	橋 本 きみ子	"	
21	"	"	"	6	樋 口 昌 樹	"	
22	"	"	"	4	増 井 泰 弘	"	
23	"	"	"	4	香 川 浩 子	"	
24	"	川西町北 151	城 辰 小	4	増 田 昌 子	28-7401	
25	"	郡家町 790-1	郡 家 小	校長	庭 村 三勇喜	28-8401	
26	"	"	"	2	西 堀 京 子	"	
27	"	"	"	5	宮 武 紀 子	"	
28	"	"	"	6	田 中 志代美	"	
29	"	"	"	3	香 川 佳 和	"	
30	"	"	"	6	久保山 学	"	
31	"	"	"	6	寒 川 英 樹	"	
32	"	"	"	5	藤 六 健	"	
33	"	飯野町西分 113	飯 野 小	3	門 久仁子	22-6019	
34	"	"	"	4	木 下 博 美	"	
35	"	垂水町 1408	垂 水 小	4	玉 田 稔	28-7551	
36	"	広島町青木 549	広島西小	4	梅 川 禎	29-2332	
37	"	広島町小手島 2782	小手島小	3・4	戸 田 桃 子	29-2321	

坂出市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	762	白金町 1-3-7	西 部 小	教頭	山 下 緑	0877 46-2149	
2	"	"	"	5	田 中 秀 年	"	
3	"	"	"	5	稲 田 耕 一	"	
4	"	寿町 3-1-2	中 央 小	2	鈴 木 清 子	46-2124	
5	"	"	"	4	鈴 木 育 代	"	
6	"	室町 1-1-21	東 部 小	1	植 田 淳	46-0234	
7	"	"	"	4	川 中 祥 照	"	
8	"	"	"	5	野 村 亮 子	"	
9	"	"	"	5	福 家 寿 夫	"	
10	"	"	"	5	坂 田 宏 文	"	
11	"	"	"	2	船 津 明 子	"	
12	"	谷町 3-1-23	金 山 小	6	虫 本 利 久	46-2329	
13	"	西庄町 524-2	西 庄 小	教頭	木 本 珠 城	46-2662	
14	"	"	"	4	多田羅 敏 弘	"	
15	"	"	"	6	蔵 本 勝 広	"	
16	"	林田町 2191	林 田 小	4	吉 田 和 弘	47-0270	
17	"	"	"	5	丸 尾 浩 一	"	
18	"	加茂町 1099	加 茂 小	校長	大 林 照 男	48-0601	
19	"	府中町 1193	府 中 小	校長	曾 根 照 正	48-0610	
20	"	"	"	2	前 谷 智 仁	"	
21	"	"	"	6	河 野 富 男	"	
22	"	川津町 3093-1	川 津 小	1	来 田 育 代	46-3884	
23	"	"	"	6	雨 霧 壽 男	"	
24	"	高屋町 1050	松 山 小	教頭	丸 野 忠 義	47-0606	
25	"	"	"	4	谷 本 量 子	"	
26	"	王越町木沢 211	王 越 小	教頭	大 前 正 昭	42-0104	
27	"	瀬居町 1490	瀬 居 小	3	丸 尾 ルミ子	46-9194	
28	"	与島町 263	与 島 小	6	平 澤 昌 司	43-0101	
29	"	岩黒 240	岩 黒 小	3	河 崎 幸 美	43-0104	
30	"	櫃石 585-17	櫃 石 小	5	橋 本 康 裕	43-0203	
31	"	文京町 2-4-2	附坂出小	副校長	大 西 孝 典	46-2692	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自 宅 電 話
32	762	文京町 2-4-2	附坂出小	4	宇 山 知 昌	0877 46-2692	
33	"	"	"	6	岡 根 淳 二	"	
34	761	高・亀水町 1412-2	瀬戸内海歴史 民俗資料館		唐 木 裕 志	0878 81-4707	

小豆郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自 宅 電 話
1	761-41	土庄町甲 657-7	土 庄 小	5	岡 本 英 孝	0879 62-0068	
2	"	"	"		障 役 重 和 雅	"	
3	"	"	"	2	三 崎 彰 夫	"	
4	"	土庄町甲 3417	戸 形 小	3	林 絹 子	62-0108	
5	"	土庄町湊崎	湊 崎 小	校長	田 川 敬 司	62-0072	
6	"	"	"	4	黒 川 和 仁	"	
7	761-43	池田町池田	池 田 小	6	石 井 英 樹	75-2222	
8	"	池田町蒲生	蒲 生 小	2	林 宗 利	75-0007	
9	"	池田町蒲野	三 都 小	教頭	川 井 千代子	76-0007	
10	"	"	"	6	羽 座 則 史	"	
11	761-44	内海町草壁本町	星 城 小	5	大 嶋 和 彦	82-2011	
12	"	内海町安田	安 田 小	教頭	広 田 秀 雄	82-2012	
13	"	"	"	4	寺 島 俊 秀	"	
14	"	内海町苗羽	苗 羽 小	3	林 明 子	82-2013	
15	"	"	"	4	長 栄 佐代美	"	
16	"	内海町福田	福 田 小	6	三 木 正 貴	84-2023	

大川郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	769-29	引田町南野 204	相 生 小	3	高 田 宏 隆	0879 33-3627	
2	"	"	"	6	窪 田 史 子	"	
3	"	"	"	4	田 辺 裕一朗	"	
4	"	引田町引田 2068	引 田 小	校長	池 田 泰 造	33-2036	
5	"	"	"	6	向 山 智恵子	"	
6	769-27	白鳥町松原 167-1	本 町 小	専	佐 藤 正 文	25-3064	
7	"	"	"	5	橋 本 義 人	"	
8	"	"	"	6	岩 崎 安 徳	"	
9	"	"	"	6	和 田 直 美	"	
10	"	"	"	3	細 川 由 香	"	
11	"	白鳥町白鳥 525	白 鳥 小	5	渡 邊 美喜男	25-2642	
12	"	"	"	3	亀 井 健 男	"	
13	769-29	白鳥町与田山 351-1	福 栄 小	3	古 澤 哲 夫	27-2323	
14	769-27	白鳥町五名 1400	五 名 小	1	大 高 哲 也	29-2003	
15	769-26	大内町三本松 862-1	三本松小	校長	安 部 武	25-2664	
16	"	"	"	6	山 下 博	"	
17	"	"	"	5	大 山 宗 俊	"	
18	"	大内町中筋 425	誉 水 小	5	穴 吹 眞 二	25-2044	
19	"	"	"	3	松 村 慎 司	"	
20	769-25	大内町町田 126-1	丹 生 小	教頭	野 崎 智	25-3504	
21	"	"	"	3	大 岡 真 海	"	
22	"	"	"	4	沖 東 二	"	
23	"	"	"	5	村 上 勝	"	
24	"	"	"	5	竹 田 具 治	"	
25	"	"	"	6	山 下 勝 正	"	
26							
27	761-09	大内町富田西 2595-2	富 田 小	6	白 澤 一 修	43-2016	
28							
29	769-23	寒川町石田東甲 425	石 田 小			43-2006	
30	"	"	"			"	
31	"	"	"			"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
32	769-23	寒川町神前 165	神 前 小	校長	吉 岡 浩 一	0879 43-2124	
33	"	"	"	教頭	小 倉 健 治	"	
34	"	"	"	1	山 下 万由美	"	
35	"	長尾町造田是弘688-1	造 田 小	教頭	古 市 聖 治	52-2141	
36	"	"	"	6	濱 松 春 水	"	
37	"	"	"	4	徳 永 志 野	"	
38	"	長尾町東 901-1	長 尾 小				
39	"	長尾町多和助光30-1	多 和 小	校長	藤 井 洋 一	52-2002	
40	"	"	"	教頭	熊 田 正 美	"	
41	"	"	"	5	三 井 重 彰	"	
42	"	"	"	1	筑 後 暁 美	"	
43	"	"	"	4	松 村 和 仁	"	
44	769-21	志度町大字志度 727	志 度 小	3	大 山 博 文	0878 94-0041	
45	"	"	"	4	佐 立 裕 美	"	
46	"	"	"	3	大 石 桂 司	"	
47	"	"	"	2	梅 本 明 宏	"	
48	"	志度町大字鴨庄 2947	中 央 小	3	六 車 功	95-1154	
49	"	"	"	2	木 村 俊 哉	"	
50	"	志度町鴨部 1137	鴨 部 小	1	三 好 憲 昭	95-0030	
51	769-24	津田町津田 144	津 田 小	校長	亀 井 達 男	0879 42-2047	
52	"	津田町鶴羽 781-2	鶴 羽 小	教頭	八 木 育 夫	42-2041	
53	"	"	"	5	竹 内 久 司	"	

木田郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-07	三木町下高岡	白 山 小	6	泉 聡	0878 98-0257	
2	"	"	"	4	兼 原 康 孝	"	
3	"	"	"	4	伊 藤 良 春	"	
4	"	三木町奥山	神 山 小	2	古 市 礼 恵		
5	761-01	牟礼町大字 2900-1	牟礼北小	教頭	高 尾 吉 臣	45-5742	
6	"	"	"	5	伏 見 千 珠	"	
7	"	"	"	3	森 本 三千代	"	
8	761-06	三木町田中 4620-2	田 中 小	5	多 田 加代子	98-0501	
9	"	"	"	6	脇 広 久	"	
10	"	"	"	1	香 西 幸 代	"	
11	"	"	"	2	中 村 恵 子	"	
12	"	"	"	4	柴 原 照 子	"	
13	"	"	"	4	小笠原 学	"	
14	"	"	"	鳴門 教大	森 口 英 樹	"	
15	761-07	三木町平木 710-1	平 井 小	4	住 田 栄 子	98-0713	
16	"	"	"	4	河 野 利 佳	"	
17	"	"	"	5	六 車 信 二	"	
18	"	"	"	教務	野 崎 恭 一	"	
19	761-01	牟礼町大町 1560	牟 礼 小	校長	北 堀 豊 清	45-9239	
20	"	"	"	5	檜 原 一 宏	"	
21	"	"	"	3	濱 田 和 之	"	
22	"	"	"	4	池 内 美 穂	"	
23	"	"	"	4	田 中 牧	"	
24	"	"	"	3	六 車 健	"	
25	761-06	三木町大字氷上	氷 上 小	4	南 部 裕 生	98-0710	
26	761-01	牟礼町大町 115	牟礼南小		柏 徹 哉	45-9324	

香川郡

番号	郵便番号	学校所在地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-17	香川町大野 1045-1	大 野 小		筒 井 勇	0878 89-7360	
2	"	"	"	特	平 尾 高 王	"	
3	"	香川町川東 1865-8	川 東 小		前 田 宏 之	79-2012	
4	"	香川町浅野 3088	浅 野 小		野 口 泰 三	89-0215	
5	"	"	"		篠 田 美津子	"	
6	"	"	"		前 田 勝 博	"	
7	761-14	香南町横井 1008	香 南 小	3	千 葉 雅 己	79-2269	
8	"	"	"	5	池 田 誠	"	
9	"	"	"		中 田 由紀恵	"	
10	761-16	塩江町安原上東 365	塩 江 小		鎌 野 修	93-0027	

綾歌郡

番号	郵便番号	学校所在地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-22	綾上町粉所西甲 2060	粉 所 小	5	末 澤 康 彦	0878 78-2312	
2	"	綾上町西分 1208	西 分 小	1	尾 崎 秋 子	78-2013	
3	"	綾上町西分 2213	西分南小	6	高 橋 健 司	0877 78-2703	
4	"	綾上町山田上甲 1494-1	山 田 小	校長	高 畠 優	0878 78-2004	
5	"	"	"	4	福 家 光 洋	"	
6	"	綾上町羽床上 788-1	羽床上小	2	藤 井 佳 代	78-0820	
7	761-21	綾南町畑田 2381	昭 和 小	3	脇 谷 和 子	77-0519	
8	"	綾南町陶 5878	陶 小	5	竹 下 紀 子	76-1182	
9	"	"	"	5	有 岡 俊 文	"	
10	761-23	綾南町滝宮 1100	滝 宮 小	3	篠 畑 嘉 美	76-1183	
11	"	"	"	5	花 房 長 広	"	
12	"	綾南町羽床下 2256	羽 床 小	4	中 西 昇	76-1184	
13	769-01	国分寺町新居 1880	国北分寺小	校長	川 上 保 直	74-1154	
14	"	"	"	2	波 多 誠	"	
15	"	"	"	2	唐 木 美千子	"	
16	"	"	"	2	上 野 味代子	"	
17	"	"	"	3	藤 田 順 也	"	
18	"	"	"	6	丹 後 靖 史	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
19	769-01	国分寺町福家甲 3005	国分寺小	教頭	山 崎 敏 和	0878 74-1160	
20	"	"	"	2	牧 野 佐江子	"	
21	"	"	"	3	青 木 弥 生	"	
22	"	"	"	4	三 好 道 代	"	
23	"	"	"	5	眞 井 孝 征	"	
24	761-24	綾歌町富熊 1227	富 熊 小	教頭	尾 崎 幸 男	0877 86-2010	
25	"	"	"	6	廣 田 敏 子	"	
26	"	綾歌町栗熊東 323	栗 熊 小	教頭	森 口 訓 行	86-2002	
27	"	"	"	3	藤 岡 枝里子	"	
28	"	"	"	4	坂 東 博 文	"	
29	"	綾歌町岡田下 217	岡 田 小	3	高 吉 直 之	86-3004	
30	"	"	"	5	大 西 浩 史	"	
31	"	"	"	6	野 村 一 夫	"	
32	762	飯山町川原 1874	飯山北小	校長	土 岐 道 憲	98-2020	
33	"	"	"	1	田 村 培 雄	"	
34	"	"	"	2	萱 原 洋 子	"	
35	"	"	"	3	佐久間 順 子	"	
36	"	"	"	4	永 森 政 代	"	
37	"	"	"	4	安 藤 雅 慶	"	
38	"	飯山町法軍寺 1206	飯山南小	5	徳 永 桂 子	98-2024	
39	769-02	宇多津町 815	宇多津小	1	神 田 仁 美	49-1820	
40	"	"	"	2	大 高 浩 一	"	
41	"	"	"	4	小 林 久美子	"	
42	"	"	"	6	長 友 章 子	"	

仲多度・善通寺

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	766	満濃町東高篠 139	高 篠 小	6	亀 山 典 良	0877 73-3842	
2	"	"	"	2	前 田 美穂子	"	
3	"	満濃町四条 728	四 条 小	教頭	水 卜 由 文	73-5514	
4	"	"	"	5	山 下 敦	"	
5	"	満濃町吉野 74	満濃南小	4	石 井 恭 子	79-2110	
6	"	"	"	5	高 橋 克 佳	"	
7	766-02	琴南町川東 919	東 小	6	高 橋 義 徳	84-2333	
8	"	"	"	内留	荻 田 裕 之	"	
9	"	"	"	5	橋 塚 智 教	"	
10	769-03	仲南町七箇 2529	仲南東小	校長	長 尾 浩	77-2140	
11	766	琴平町 145-1	琴 平 小	5	前 川 保 雄	73-2831	
12	"	"	"	4	続 木 香子子	"	
13	"	琴平町榎井 58-3	榎 井 小	4	岡 崎 江 美	73-2494	
14	"	琴平町上櫛梨 26	象 郷 小	教頭	梅 木 栄 枝	73-2830	
15	764	多度津町三井 433-1	四 箇 小	専	三 井 尚	32-2517	
16	"	"	"	2	宮 川 美恵子	"	
17	"	多度津町奥白方 1142	白 方 小	5	小笠原 民 子	32-3331	
18	"	多度津町南鴨 704	豊 原 小	教頭	山 下 清 明	32-2050	
19	"	"	"	5	小 林 規 子	"	
20	"	多度津町 3-1-9	多度津小	5	片 井 功	33-1616	
21	765	善・文京町 4-5-1	中 央 小	5	横 山 妙 子	62-1616	
22	"	"	"	6	松 原 千代子	"	
23	"	善・善通寺町 1146	西 部 小	4	宇 草 志津子	62-0701	
24	"	善・生野町 2990-1	南 部 小	5	横 川 正 信	62-0702	
25	"	"	"	6	山 地 牧 子	"	
26	"	善・原田町 306-1	竜 川 小		梅 木 正 信	62-0705	
27	"	"	"	4	萬 亀 弘 吉	"	
28	"	善・中村町 1575-2	筆 岡 小	4	山 本 可依子	62-0706	
29	"	"	"	5	瀬 戸 享 子	"	
30	"	"	"	5	森 昭 二	"	
31	"	"	"	4	宮 武 克 明	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
32	765	善・吉原町 2811	吉 原 小	2	川 田 須美子	0877 62-0707	

三豊郡・観音寺市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	769-16	三・豊浜町 ^{和田浜} 1000	豊 浜 小	教頭	大 山 正 子	0875 52-2029	
2	"	"	"	6	柴 田 英 明	"	
3	"	"	"	4	宝 田 小夜子	"	
4	"	"	"	6	川 田 真 司	"	
5	"	"	"	2	片 山 浩 子	"	
6	"	"	"	1	橋 田 栄 子	"	
7	"	三・大野原町 ^{萩原} 2354	萩 原 小	5	萩 田 正 信	54-2079	
8	"	"	"	1	村 主 彰 子	"	
9	"	観・観音寺町 ^甲 1186-2	観 南 小	4	小 山 善 弘	25-4675	
10	"	"	"	5	佐 長 健 司	"	
11	"	"	"	専科	十 鳥 博 子	"	
12	"	"	"	1	近 藤 あけみ	"	
13	"	"	"	4	黒 田 由 美	"	
14	"	"	"	2	藤 原 恵	"	
15	"	"	"	教頭	藤 田 美代子	"	
16	"	"	"	教頭	藤 田 都 明	"	
17	768	観・観音寺町甲670-2	観 東 小	校長	岸 上 孝	25-2219	
18	"	"	"	専科	原 直 史	"	
19	"	"	"	4	宝 田 千 秋	"	
20	"	観・伊吹町 309	伊 吹 小	5	斉 藤 徳 三	29-2103	
21	"	"	"	4	長谷川 剛	"	
22	"	観・高屋町 1877	高 室 小	内留	高 谷 浩 輔	25-2661	
23	"	"	"	4	長 野 勝 巳	"	
24	"	観・柞田町 1000	柞 田 小	6	木 村 勝 美	25-3621	
25	"	観・粟井町 1452	粟 井 小	教頭	西 谷 則 一	27-6229	
26	"	観・古川町 102-1	一ノ谷小	教頭	牧 野 五十鈴	25-0204	
27	768-01	三・山本町辻 1375	辻 小	5	合 田 雅 気	63-2037	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
28	768-01	三・山本町辻 1375	辻 小	障害児	三 好 千 鶴	0875 63-2037	
29	"	三・山本町河内 714	河 内 小	校長	白 川 安 男	63-2019	
30	"	"	"	6	石 川 博 健	"	
31	"	"	"	5	安 藤 清 和	"	
32	"	三・山本町神田1259	神 田 小	6	白 杵 優	63-2193	
33	"	三・山本町大野457-1	大 野 小	教頭	渡 辺 重 忠	63-2009	
34	769-04	三・財田町財田中570	財田中小	5	西 山 佳代子	67-2006	
35	"	三・財田町財田上 726	財田上小	5	岸 上 也寸志	67-2005	
36	"	"	"	6	赤 坂 光 敏	"	
37	769-15	三・豊中町本山甲1893	本 山 小	校長	中 田 清	62-2125	
38	"	"	"	1	大 西 久美子	"	
39	"	三・豊中町岡本188-1	桑 山 小	3	宮 武 昭 裕	62-2103	
40	"	三・豊中町笠田笠岡 2191	笠 田 小	内留	岩 倉 隆 視	62-2004	
41	"	三・豊中町比地大 2514-1	比地大小	6	福 岡 和 信	62-2124	
42	767	三・高瀬町佐股甲 1494-3	二ノ宮小	校長	三 崎 澄 人	74-6302	
43	"	"	"	4	加 藤 佳代子	"	
44	"	三・高瀬町上高瀬783	上高瀬小	3	森 田 直 樹	72-5309	
45	"	"	"	5	横 山 浩	"	
46	"	三・高瀬町下勝間803	勝 間 小	4	安 藤 通	72-5329	
47	"	"	"	教頭	田 井 秀 典	"	
48	"	三・高瀬町下麻1209-2	麻 小	6	平 川 博	74-6237	
49	"	三・三野町下高瀬760	下高瀬小	校長	前 川 定 光	72-5401	
50	769-14	三・仁尾町仁尾丙1736	仁 尾 小	3	秋 元 一 秀	82-2049	
51	769-11	三・詫間町松崎 722	松 崎 小	校長	石 井 英 雄	83-2856	
52	"	"	"	教頭	藤 田 昌 示	"	
53	"	"	"	1	森 川 宏 子	"	
54	"	"	"	4	吉 田 匡 克	"	
55	769-13	三・詫間町栗島1506-2	栗 島 小	4	深 川 隆	84-7012	
56	769-12	三・詫間町箱 551-1	箱 浦 小	5	名 越 盟 人	84-7356	
57	"	三・詫間町詫間 2158	詫 間 小	5	高 浜 淳 子	83-2858	
58	"	"	"	3	松 岡 義 樹	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学校名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
59	767	三・三野町大見甲 3034	大 見 小	5	森 井 信 一	0875 72-5402	
60	〃	〃	〃	2	飯 沢 玉 美	〃	